

岡崎市介護保険等実態調査

結果報告書

【概要版】

令和5年3月

岡崎市

目次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象及び調査方法	1
(3) 回収数・回収率	2
(4) 報告書の見方	2
2. 日常生活・介護予防等について	3
(1) 回答者について	3
(2) 各種のリスク判定について	4
(3) 感染症拡大の影響について	9
(4) 情報通信機器の利用について	11
(5) 日常生活等について	13
3. 在宅介護の状況について	21
(1) 在宅サービス利用者について	21
(2) 主な介護者の状況	24
4. 施設入所者の状況について	27
(1) 入所前の状況と要介護度	27
(2) 入所施設への満足度	28
5. 介護サービス事業所等の状況について	29
(1) 事業所運営の課題	29
(2) 人材確保の状況	33
6. ケアマネジメントについて	35
(1) ケアマネジャーの人材確保の状況	35
(2) ケアプランの作成について	36
(3) 介護サービスについて	38
7. 調査結果のまとめ	39
(1) 本市の高齢者の状況	39
(2) 新型コロナウイルス感染症の高齢者の生活への影響	39
(3) 情報通信機器の活用状況	39
(4) 介護サービス等の状況	40

1. 調査の概要

(1)調査の目的

本調査は、令和6年度を初年度とする第9期の「岡崎市地域包括ケア計画」の策定に向け、本市に居住する高齢者、介護サービス利用者、介護サービス事業者等の実態やニーズ、またその変化を把握し、高齢者福祉及び介護保険サービスのあり方を検討するための基礎資料として活用することを目的として実施しました。

(2)調査対象及び調査方法

全体で8種の調査を実施しました。実施した調査別の調査対象等は以下の通りです。

	調査種別	調査対象	調査方法	調査期間
1	一般高齢者	要介護の認定を受けていない、65歳以上の市民（要支援及び事業対象者を含む。）から3,600人を無作為抽出	郵送配付・ 郵送回収	11月9日 (水)～ 25日(金)
2	若年者	要介護等の認定を受けていない、55～64歳の市民から1,000人を無作為抽出		
3	在宅サービス利用者	要介護等の認定を受けた市民のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けて在宅介護サービスを利用している市民から1,500人を無作為抽出※1		
4	施設入所者	要介護等の認定を受けた市民のうち、介護保険施設等に入所または入居している市民から1,500人を無作為抽出		
5	居宅介護支援事業者	本市でサービスを提供する居宅介護支援事業者98件(全数)		
6	在宅介護サービス事業者	本市でサービスを提供する在宅介護サービス事業者299件(全数)		
7	入所施設事業者	本市でサービスを提供する入所施設事業者106件(全数)		
8	介護支援専門員	介護支援事業者調査の対象となった事業所に勤務する介護支援専門員(1事業所2名まで)※2		

※1：在宅サービス利用者については、個人情報利用の同意を得られた対象者のみ介護保険認定データを突合している。

※2：居宅介護支援事業者調査に同封して配付、回答者の選定は各事業者の任意による。

(3)回収数・回収率

アンケートの回収結果は以下のとおりです。回収された調査票のうち、調査対象者が何らかの事情で回答できない旨の回答があったもの（一般高齢者 33 件、若年者 3 件、在宅サービス利用者 149 件、施設入所者 220 件）及び質問への回答が全くなかったものについては無効回答とし、有効回収数には含めていません。

	調査種別	配付数	有効回収数	有効回収率	前回（R1年） 回収率
1	一般高齢者	3,600	2,687	74.6%	75.0%
2	若年者	1,000	541	54.1%	47.9%
3	在宅サービス利用者	1,500	845	56.3%	59.0%
4	施設入所者	1,500	704	46.9%	57.7%
5	居宅介護支援事業者	98	82	83.7%	80.0%
6	在宅介護サービス事業者	299	216	72.2%	76.3%
7	入所施設事業者	106	76	71.7%	69.1%
8	介護支援専門員	184	145	78.8%	75.7%

(4)報告書の見方

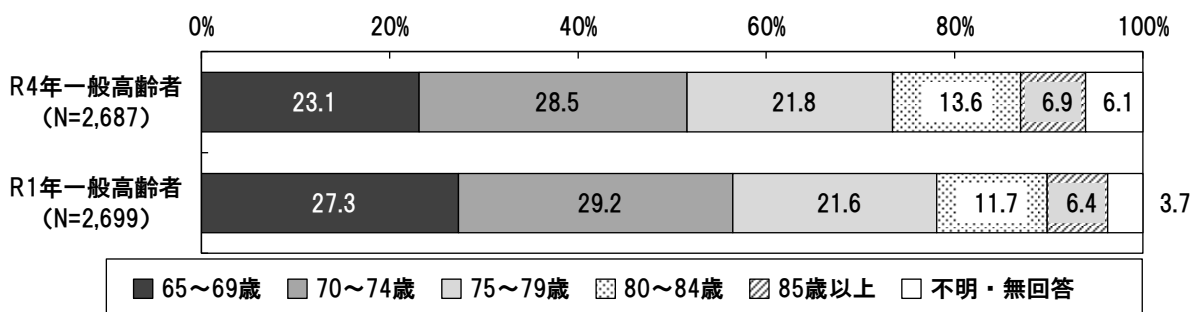
- (ア) 本調査結果については、前回調査で同様の設問があるものについては、基本的に前回調査結果と今回の調査結果を併記して示しています。R4年と表記しているのが今回の調査結果、R1年と表記しているのが前回の調査結果です。
- (イ) 回答結果の割合「%」は集計対象者総数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、選択肢からいずれか1つの選択肢を選ぶ設問であっても合計値が100.0%ちょうどにならない場合があります。
- (ウ) 複数回答（特に表記のない場合は、当てはまる選択肢をすべて選択する形式）の設問の場合、各選択肢の回答割合の合計が100.0%を超える場合があります。この形式の設問については、質問文の末尾に「複数回答」と表記しています。
- (エ) 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- (オ) 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（回答者を限定する設問の限定条件に該当する人の総数）を表しています。
- (カ) 本文中の設問・選択肢は簡略化している場合があります。

2. 日常生活・介護予防等について

(1) 回答者について

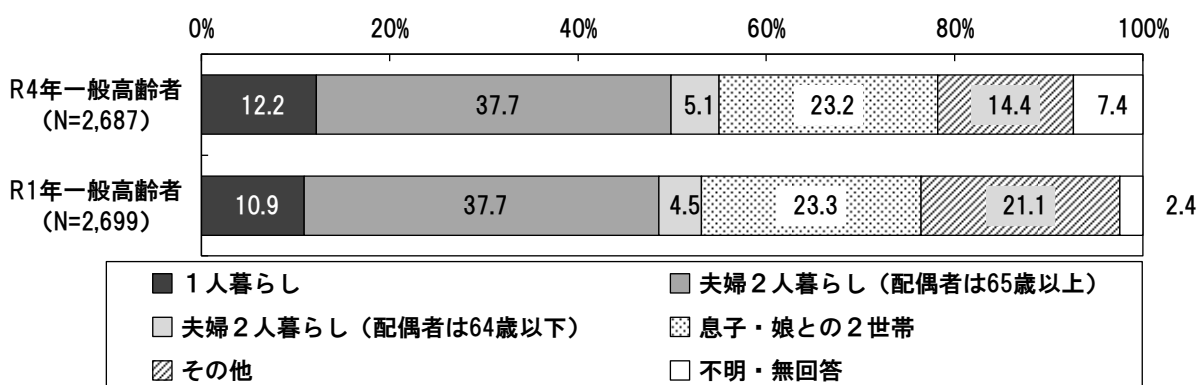
① 一般高齢者の年齢（一般高齢者）

前回調査（R1年）と比べて、74歳までの年齢がやや減少し、75歳以上がやや増加しています。



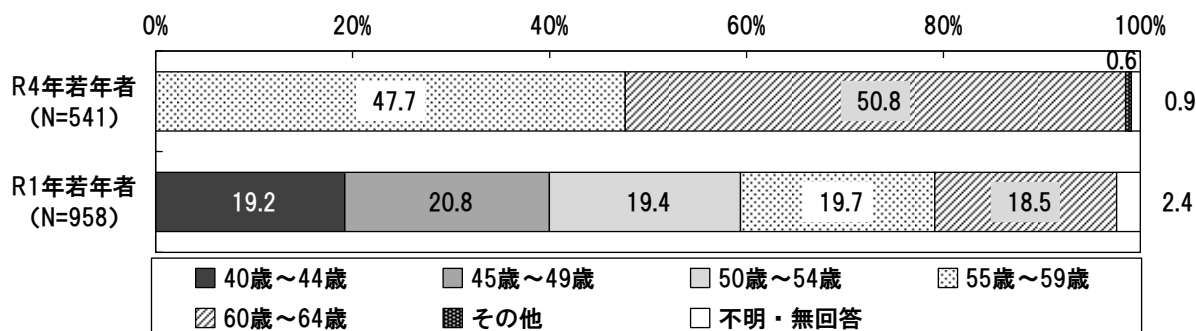
② 一般高齢者の世帯状況（一般高齢者）

前回調査と大きな違いはありませんが、「その他」が減少しており、3世代同居が減っていることがうかがえます。



③ 若年者の年齢（若年者）

今回は55~64歳が調査対象となっています。

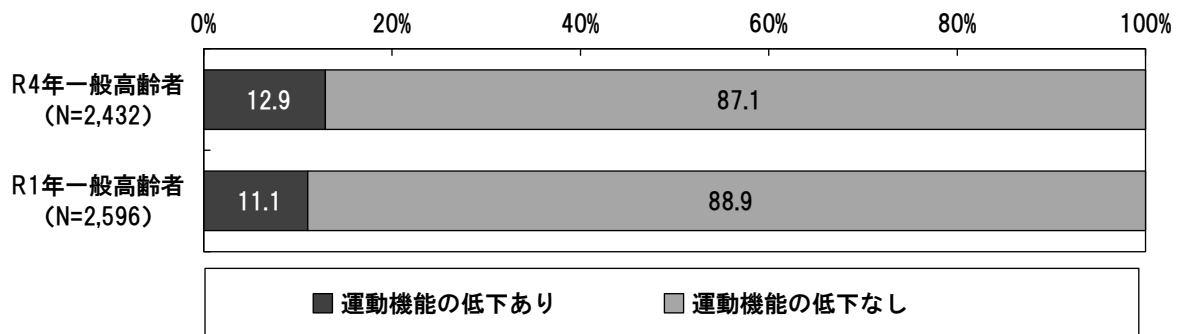


(2)各種のリスク判定について

①運動器の機能低下（一般高齢者）

前回調査と比べて、「運動機能の低下あり」がわずかに増加しています。

判定条件		
問9 階段を手すりや壁を伝わらずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるが、していない 3. できない	左記の5つの設問において、3問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）を回答された場合、運動器機能の低下している高齢者となります。
問10 椅子に座った状態から何にもつかまらず立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるが、していない 3. できない	
問11 15分くらい続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるが、していない 3. できない	
問12 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない	
問13 転倒することへの不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない	

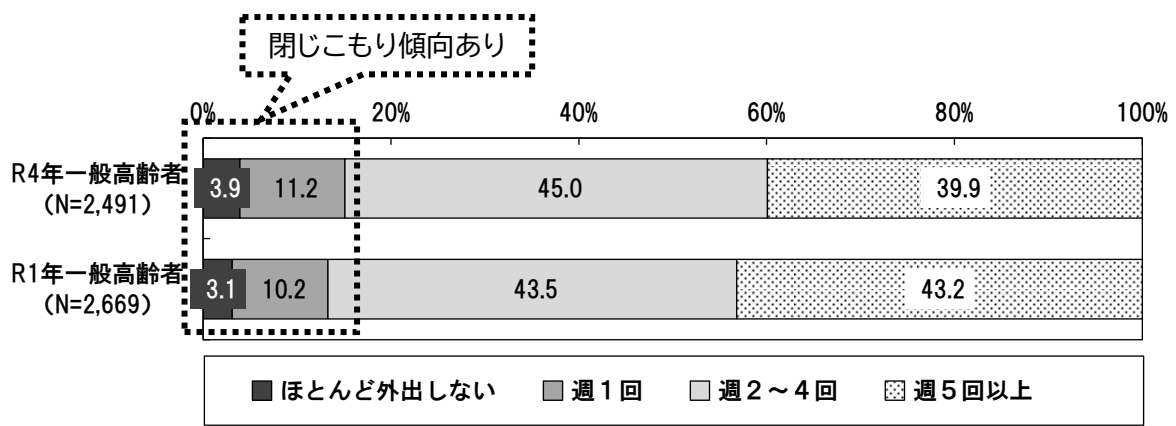


※該当する質問に無回答があり、判定できなかった件数（R4年 255件、R1年 103件）を除いた割合で比較

②閉じこもり傾向（一般高齢者）

「閉じこもり傾向あり」は15.1%となっています。前回調査と比べて、「閉じこもり傾向あり」がわずかに増加し、「週5回以上」がやや減少しています。

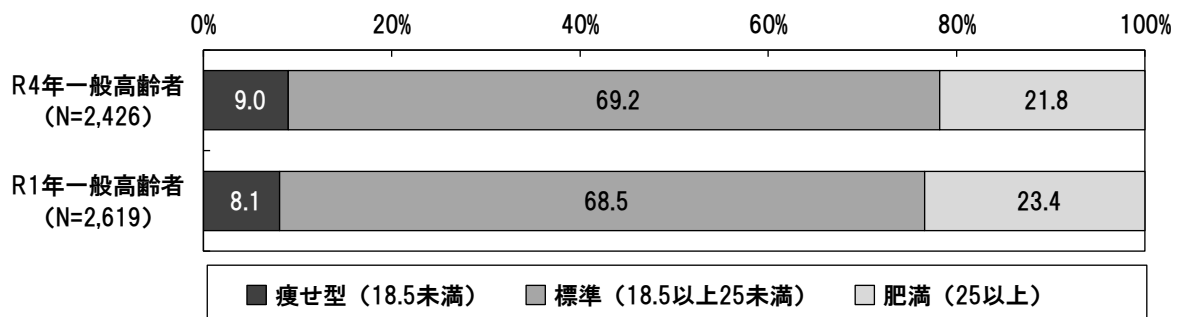
判定条件		
問 14 週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上	左記の設問において、該当する選択肢（網掛け箇所）を回答された場合、閉じこもり傾向となります。



※該当する質問に無回答があり、判定できなかった件数（R4年196件、R1年30件）を除いた割合で比較

③BMI指数（一般高齢者）

回答された身長・体重からBMI指数を算出しました。前回調査とあまり差はありません。



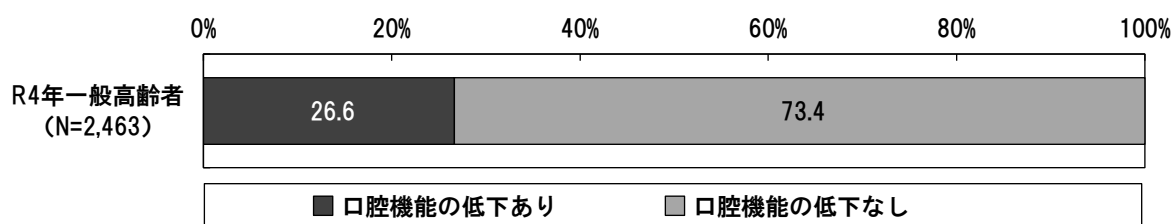
※該当する質問に無回答があり、判定できなかった件数（R4年261件、R1年80件）を除いた割合で比較

④口腔機能の低下（一般高齢者）

口腔機能の低下については、26.6%が口腔機能の低下ありと判定されました。

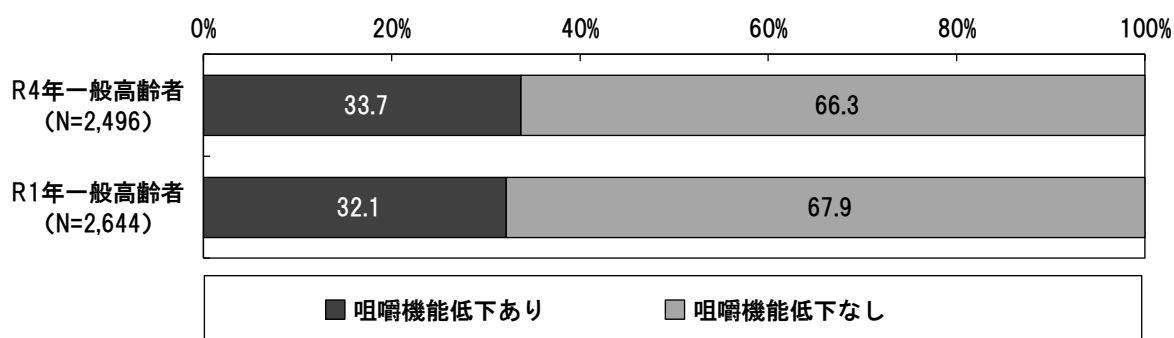
前回調査においても質問のあった問 18 の咀嚼機能の低下に関する質問のみで比較したところ、咀嚼機能が低下している高齢者の割合が、わずかに増加しています。

判定条件		
問 18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ	左記の3つの設問において、2問以上、該当する選択肢（表の網掛け箇所）を回答された場合、口腔機能の低下している高齢者となります。
問 19 お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ	
問 20 口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ	



※該当する質問に無回答があり、判定できなかった件数（R4年 224 件）を除いた割合。R1 年調査では問 19、問 20 に該当する質問がなかったため、口腔機能の低下の比較はできない。

■咀嚼機能の低下（半年前に比べて硬いものが食べにくくなったかどうか）

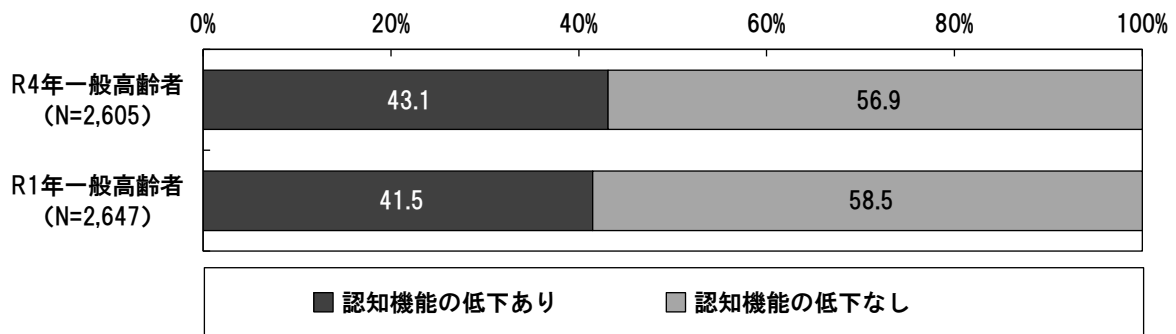


※該当する質問に無回答があり、判定できなかった件数（R4年 191 件、R1年 55 件）を除いた割合で比較

⑤認知機能の低下（一般高齢者）

認知機能の低下については、「低下あり」が43.1%となっています。前回調査よりわずかに増加しています。

判定条件		
問 25 物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ	左記の設問において、該当する選択肢（網掛け箇所）を回答された場合、認知機能の低下がみられる高齢者となります。



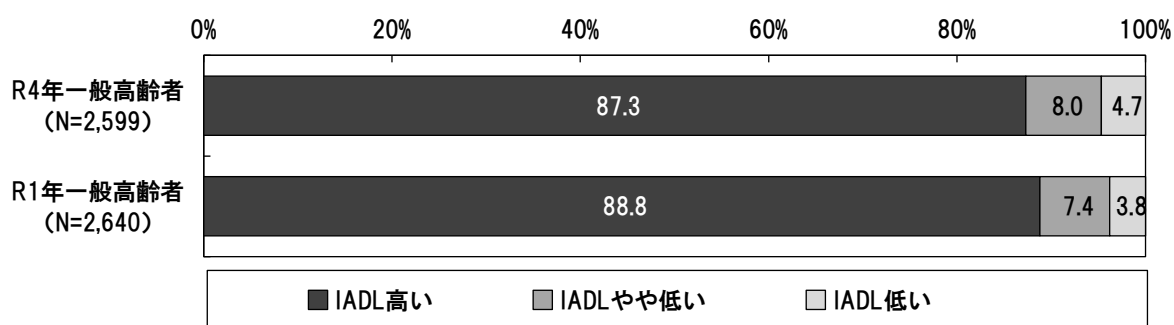
※該当する質問に無回答があり、判定できなかった件数（R4年82件、R1年52件）を除いた割合で比較

⑥ IADLの*低下（一般高齢者）

IADLが「低い」と判定された高齢者は4.7%、「やや低い」と判定された高齢者は8.0%となっています。「低い」または「やや低い」と判定された割合は、前回調査よりわずかに増加しています。

判定条件		
問 26 バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している 2. できるが、していない 3. できない	左記の5つの設問において、該当する選択肢（表の網掛け箇所）を2問以上回答された場合、IADLが低い、1問ならやや低い、0問なら高いと判定されます。
問 27 自分で食品・日用品の買い物をしていますか	1. できるし、している 2. できるが、していない 3. できない	
問 28 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるが、していない 3. できない	
問 29 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるが、していない 3. できない	
問 30 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるが、していない 3. できない	

※「IADL」とは、「Instrumental Activity of Daily Living」の略で、「手段的日常生活動作」と訳されます。例えば、掃除・料理・洗濯・買い物などの家事やコミュニケーション、交通機関の利用、自分の薬の管理、お金の管理など、単純な運動能力ではなく、日常生活を問題なく送る上で必要な活動を行う力を意味します。高齢者の自立度を評価する指標として活用されています。



※該当する質問に無回答があり、判定できなかった件数（R4年88件、R1年59件）を除いた割合で比較

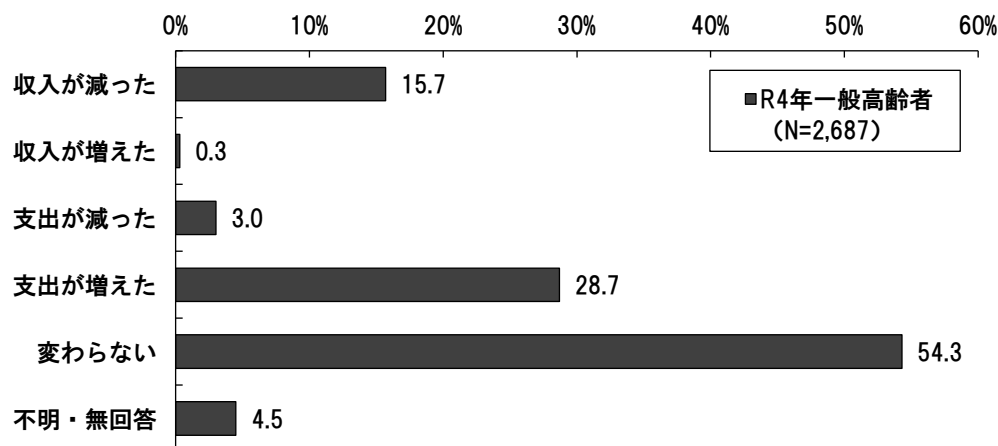
(3)感染症拡大の影響について

①感染症拡大の経済的な影響（一般高齢者）

感染症拡大の経済的な影響については、「変わらない」が54.3%で最も多く、次いで「支出が増えた」が28.7%、「収入が減った」が15.7%となっています。

■新型コロナウイルス感染症の拡大であなたの暮らしには経済的な影響がありましたか。

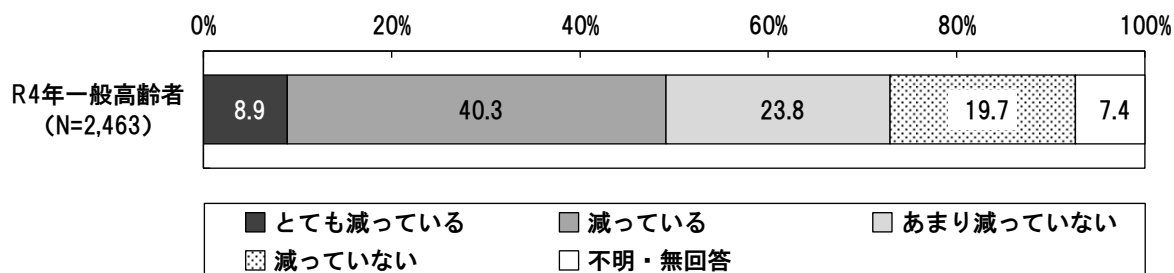
【複数回答】



②感染症の拡大前（令和2年2月より前）と比べた外出の回数（一般高齢者）

感染症拡大前と比べた外出の頻度は、約半数が「とても減っている」または「減っている」と回答しています。

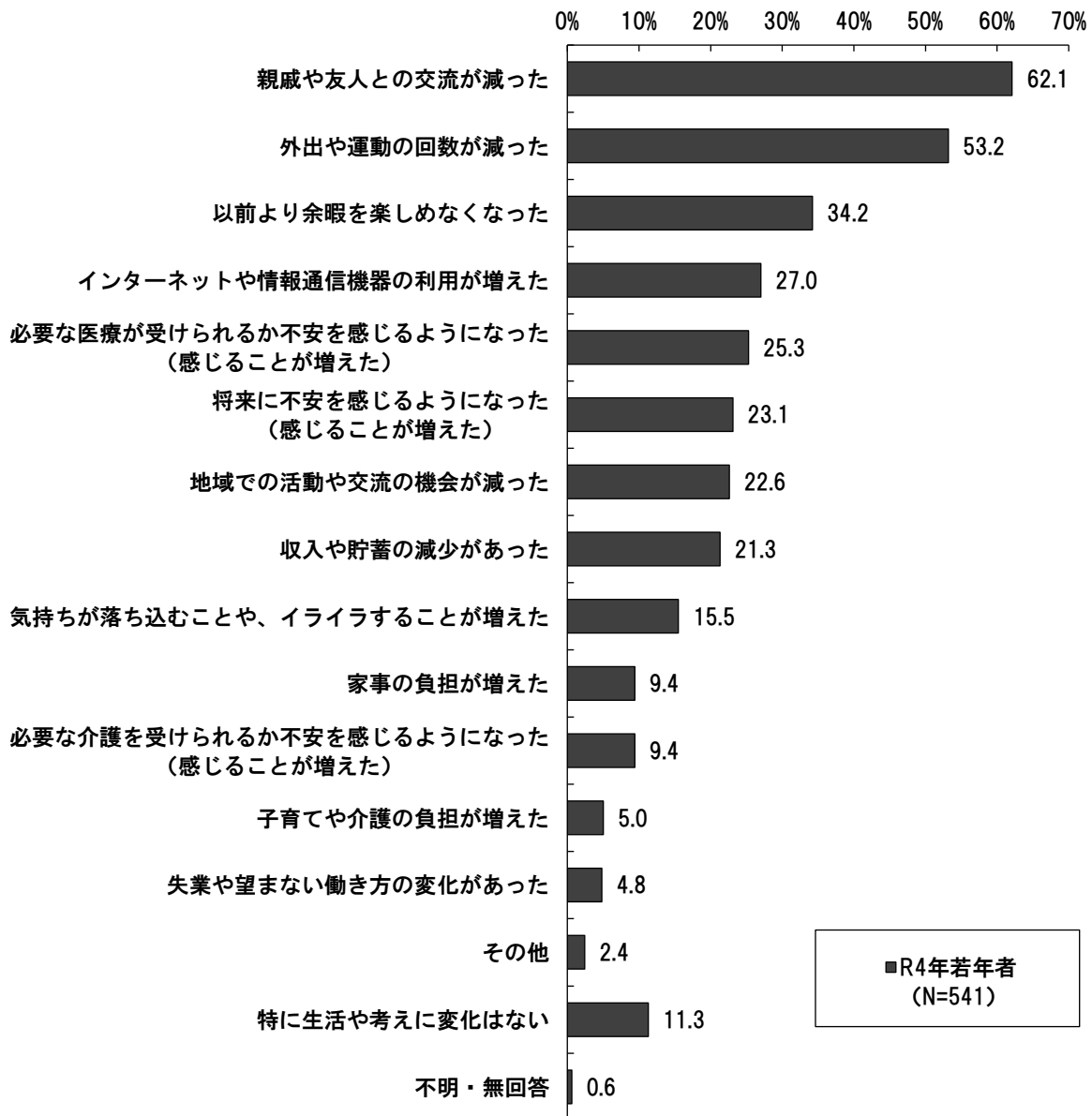
■新型コロナウイルス感染症の拡大前（令和2年2月より前）と比べて外出の回数が減っていますか。



③感染症拡大をきっかけとした生活や考えの変化（若年者）

感染症拡大をきっかけとした生活や考えの変化については、「親戚や友人との交流が減った」が62.1%で最も多く、次いで「外出や運動の回数が減った」が53.2%、「以前より余暇を楽しめなくなった」が34.2%となっています。

■新型コロナウイルス感染症の流行の拡大をきっかけにして、あなたの生活や考えにどのような変化はありましたか。【複数回答】



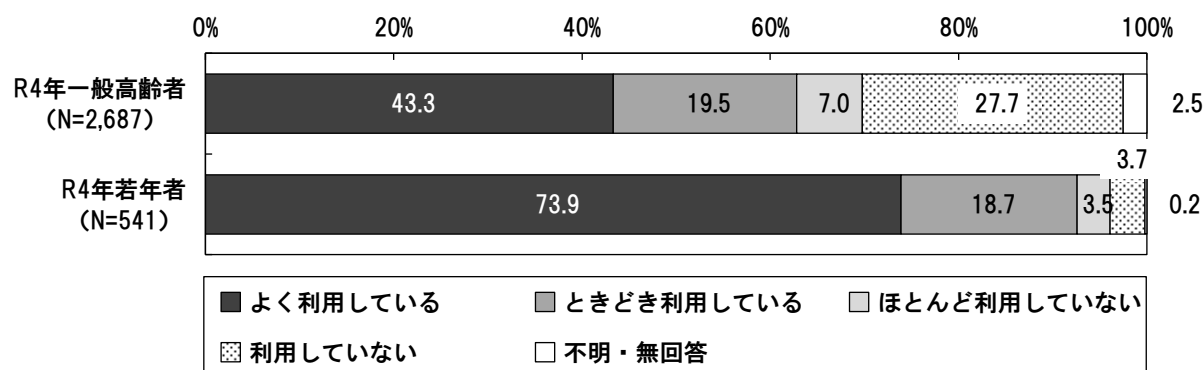
(4)情報通信機器の利用について

①情報通信機器の利用状況（一般高齢者・若年者）

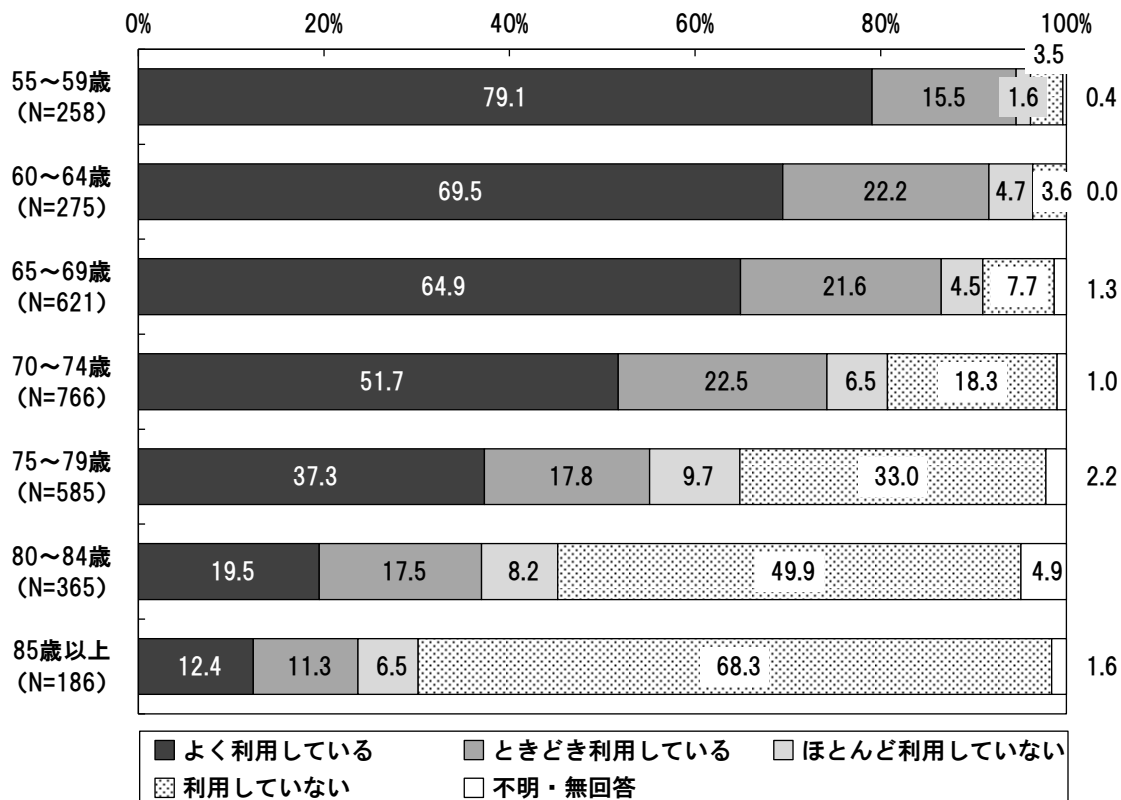
情報通信機器の利用状況については、「よく利用している」が一般高齢者 43.3%、若年者 73.9%で最も多くなっています。「利用していない」または「ほとんど利用していない」という回答は、一般高齢者 34.7%、若年者 7.2%となっています。

年齢別で見ると、60歳代までは「よく利用している」が6割を超え、70～74歳でも5割を超えています。80歳代では「利用していない」が最も多くなっています。

■あなたは、パソコン、スマートフォンやタブレット端末等の情報通信機器を利用していますか。



■年齢別に見た情報通信機器の利用状況



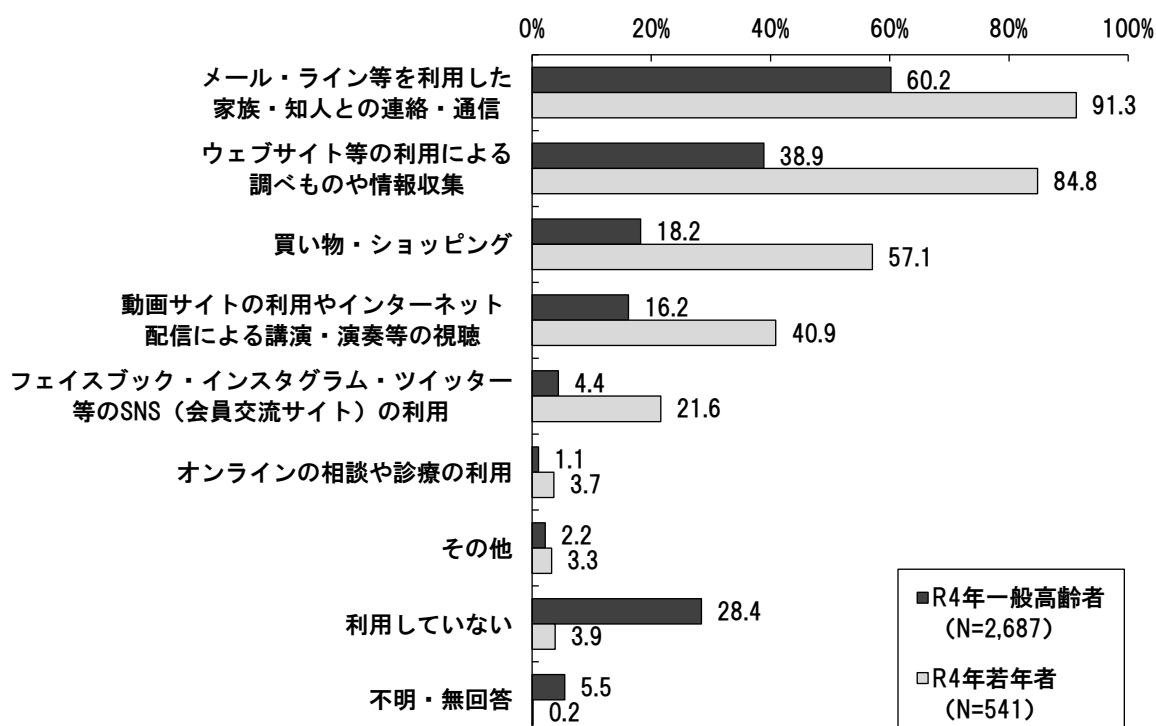
※55～64歳は若年者調査、65歳以上は一般高齢者調査結果より。

②情報通信機器を利用して、していること（一般高齢者・若年者）

情報通信機器を利用して、していることについては、「メール・ライン等を利用した家族・知人との連絡・通信」が一般高齢者・若年者とも最も多く、次いで「ウェブサイト等の利用による調べものや情報収集」が多くなっています。

年齢別にみると、多くの項目で若い年代ほど利用率が高くなっています。

■あなたは普段、パソコンやスマートフォンなどの情報通信機器を利用して、次のようなことをしていますか。【複数回答】



■年齢別に見た情報通信機器を利用して、していること【複数回答】

単位（％）

	メール・ライン等を利用した家族・知人との連絡・通信	ウェブサイト等の利用による調べものや情報収集	フェイスブック・インスタグラム・ツイッター等のSNS（会員交流サイト）の利用	動画サイトの利用やインターネット配信による講演・演奏等の視聴	買い物・ショッピング	オンラインの相談や診療の利用	その他	利用していない	不明・無回答
55～59歳 (N=258)	92.6	86.0	26.7	46.5	63.6	3.5	1.9	3.5	0.4
60～64歳 (N=275)	90.9	84.4	17.1	36.4	52.0	4.0	4.7	3.3	0.0
65～69歳 (N=621)	84.4	62.6	6.9	31.2	33.0	1.0	2.1	8.7	1.4
70～74歳 (N=766)	70.8	47.0	5.0	19.1	22.2	1.4	2.5	20.8	2.5
75～79歳 (N=585)	53.0	30.4	3.9	9.6	11.6	1.7	2.2	35.6	5.6
80～84歳 (N=365)	35.9	14.0	1.1	4.4	6.0	0.3	1.9	47.1	12.1
85歳以上 (N=186)	18.8	9.7	1.6	3.2	3.8	0.5	2.2	66.1	9.7

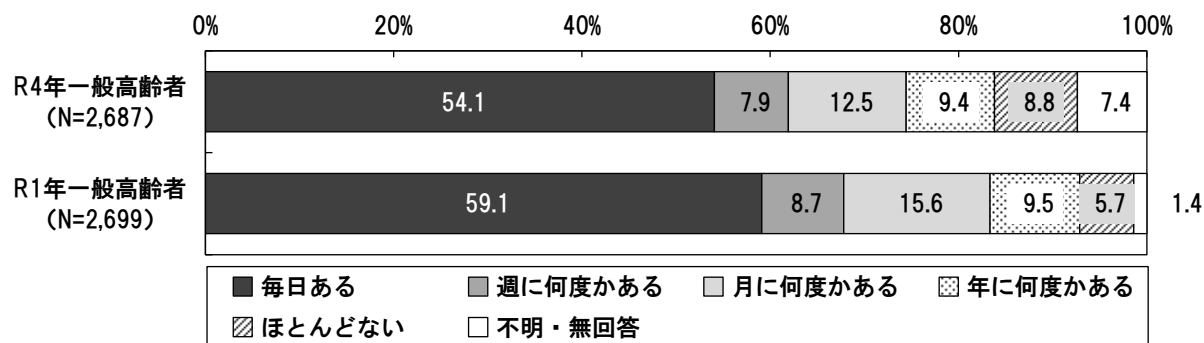
※55～64歳は若年者調査、65歳以上は一般高齢者調査結果より。

(5)日常生活等について

①食事を誰かとともにする機会について（一般高齢者）

食事を誰かとともにする機会については、「毎日ある」「月に何度かある」がやや減少し、「ほとんどない」がやや増加しています。

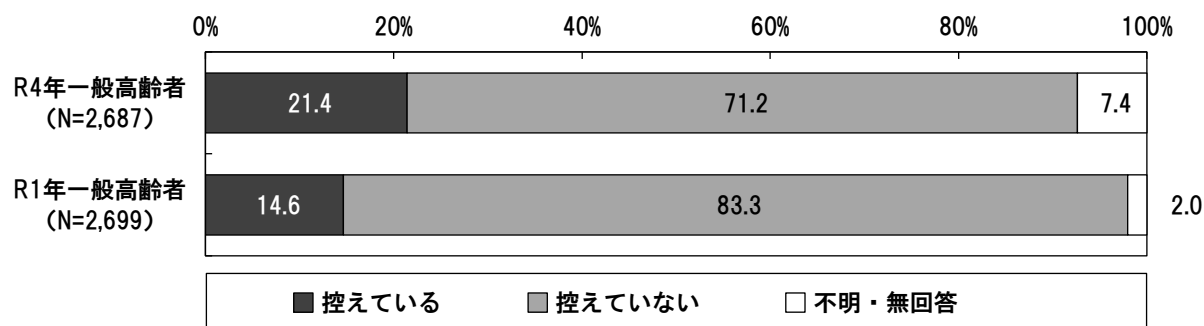
■どなたかと食事をともにする機会がありますか。



②外出を控えている状況（一般高齢者）

心身の状態により外出を控えている人の割合は、21.4%で、前回調査より増加しています。

■心身の状態により、外出を控えていますか。

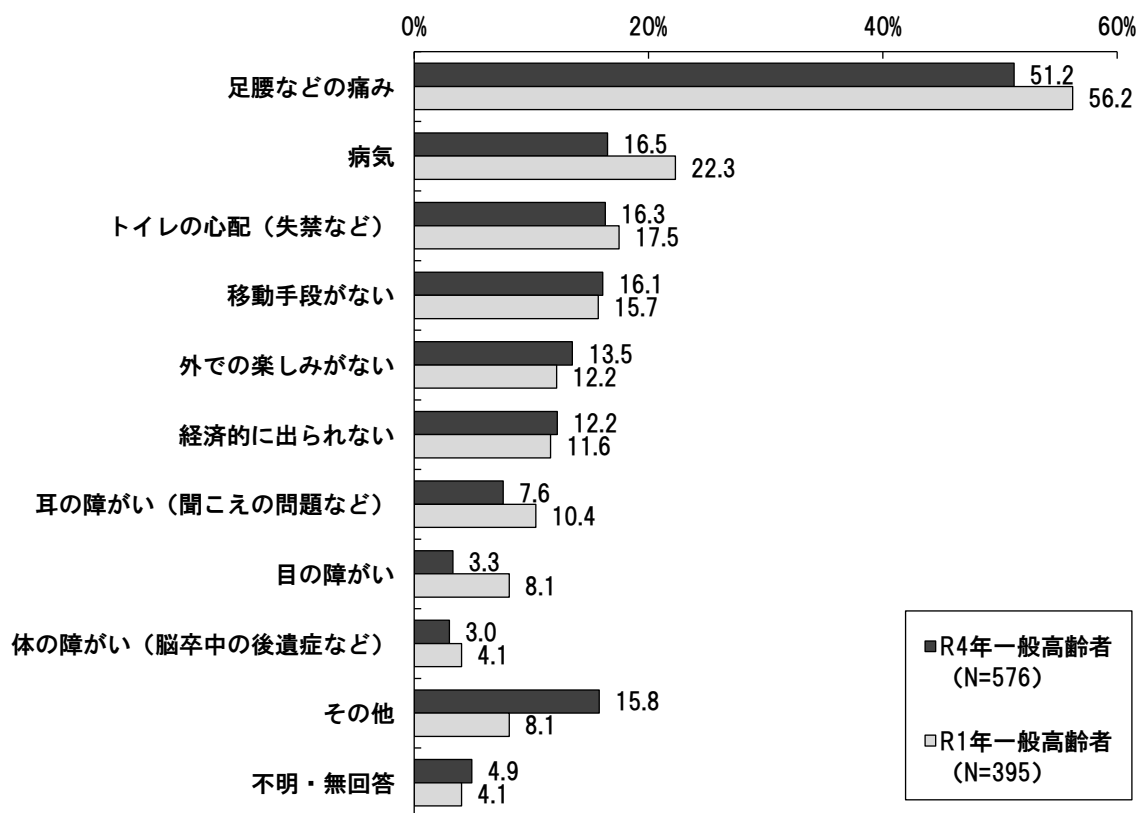


③外出を控えている理由（一般高齢者）

外出を控えていると回答した人の控えている理由については、「足腰などの痛み」が51.2%で最も多く、次いで「病気」が16.5%、「トイレの心配（失禁など）」が16.3%、「移動手段がない」が16.1%となっています。

前回調査と比べると、「足腰などの痛み」「病気」「目の障がい」がやや減少し、「その他」が増加しています。「その他」については、具体的に記載があった88件のうち、58件で新型コロナウイルス感染症に言及されており、これは回答者全体（576件）の10.1%にあたります。

■外出を控えている理由は、次のどれですか。【複数回答】

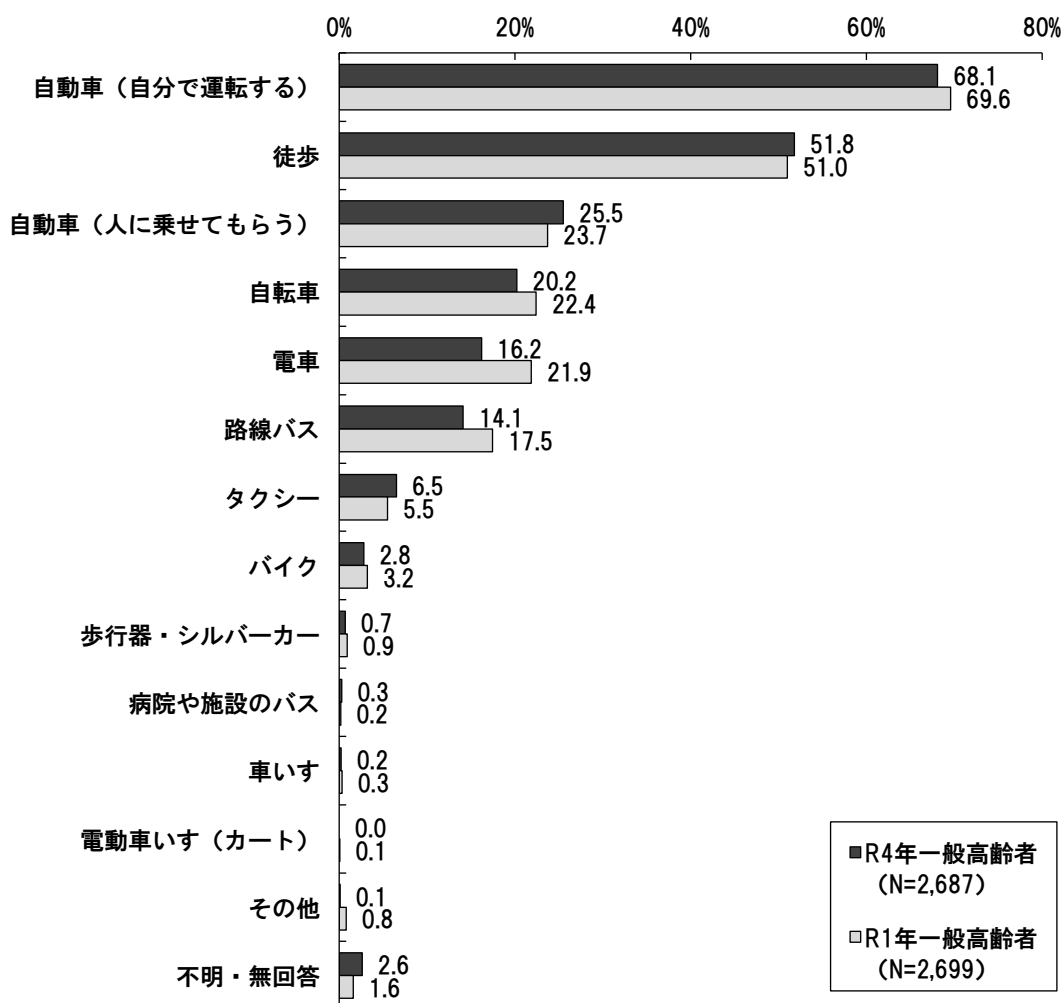


④外出の際の移動手段（一般高齢者）

外出の際の移動手段については、「自動車（自分で運転する）」が68.1%で最も多く、次いで「徒歩」が51.8%となっています。

前回調査と比べると、「電車」「路線バス」がやや減少しています。

■外出する際の移動手段は何ですか。【複数回答】



■年齢別に見た外出する際の移動手段【上位9項目】

単位 (%)

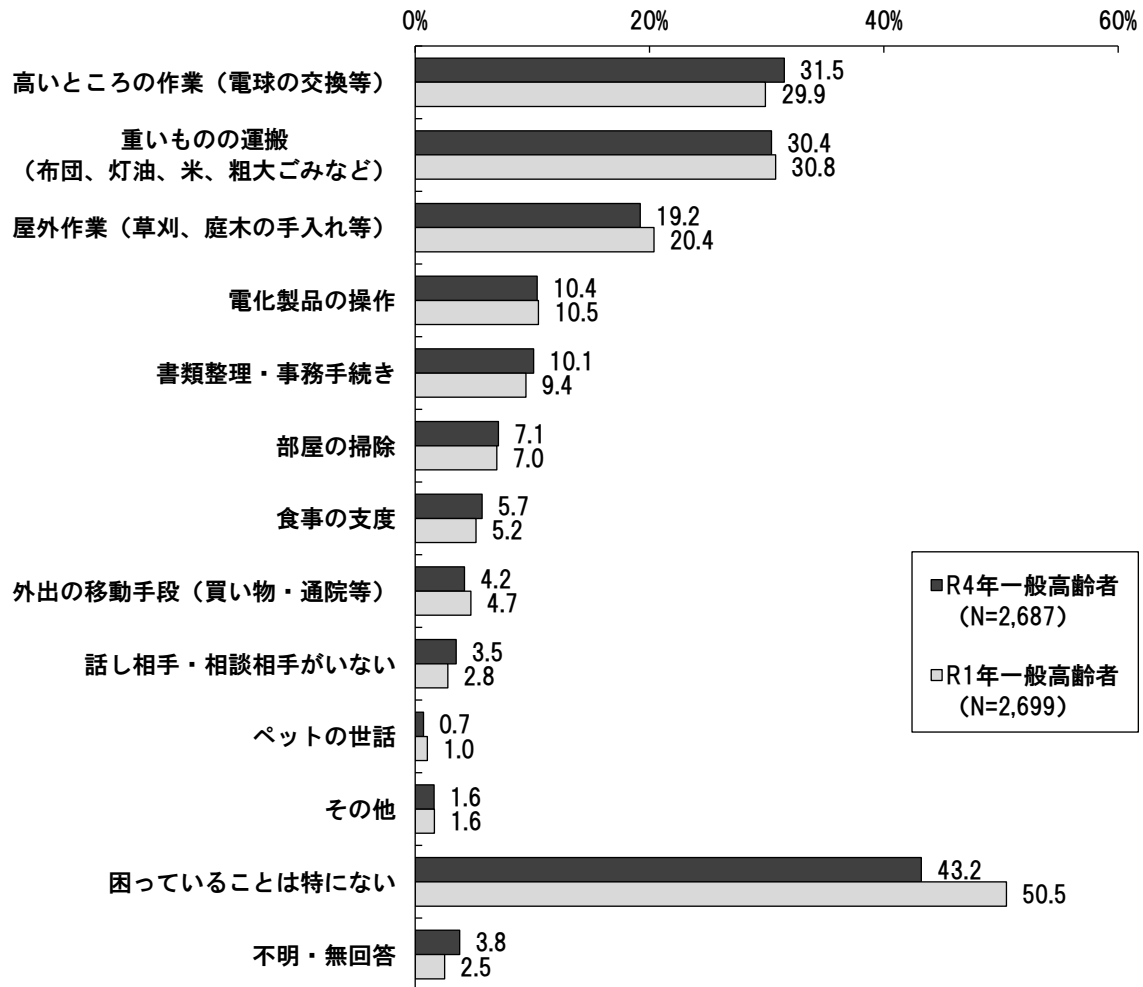
	自動車（自分で運転する）	徒歩	自動車（人に乗せてもらう）	自転車	電車	路線バス	タクシー	バイク	歩行器・シルバーカー
全体 (N=2,687)	68.1	51.8	25.5	20.2	16.2	14.1	6.5	2.8	0.7
65～69歳 (N=621)	82.8	50.6	22.4	18.7	17.2	11.6	3.1	3.9	0.0
70～74歳 (N=766)	76.0	53.0	24.4	22.1	19.6	13.4	4.2	3.3	0.0
75～79歳 (N=585)	70.1	54.9	24.3	22.6	16.1	14.4	6.7	1.9	0.2
80～84歳 (N=365)	49.3	49.3	28.5	19.5	13.2	19.5	11.2	1.1	1.4
85歳以上 (N=186)	28.0	52.2	44.6	16.7	10.2	17.7	18.8	1.1	7.0

⑤日常生活で困っていること（一般高齢者）

日常生活で困っていることについては、「高い所の作業（電球の交換等）」が31.5%で最も多く、次いで「重いものの運搬（布団、灯油、米、粗大ごみなど）」が30.4%となっています。前回調査とほぼ同様の結果ですが、「困っていることは特にない」が減少しています。

年齢別にみると、高齢になるほど困りごとの回答が多くなっています。

■日常生活において困っていることは何ですか。【複数回答】



■年齢別に見た日常生活で困っていること【上位8項目と「困っていることは特にない」】

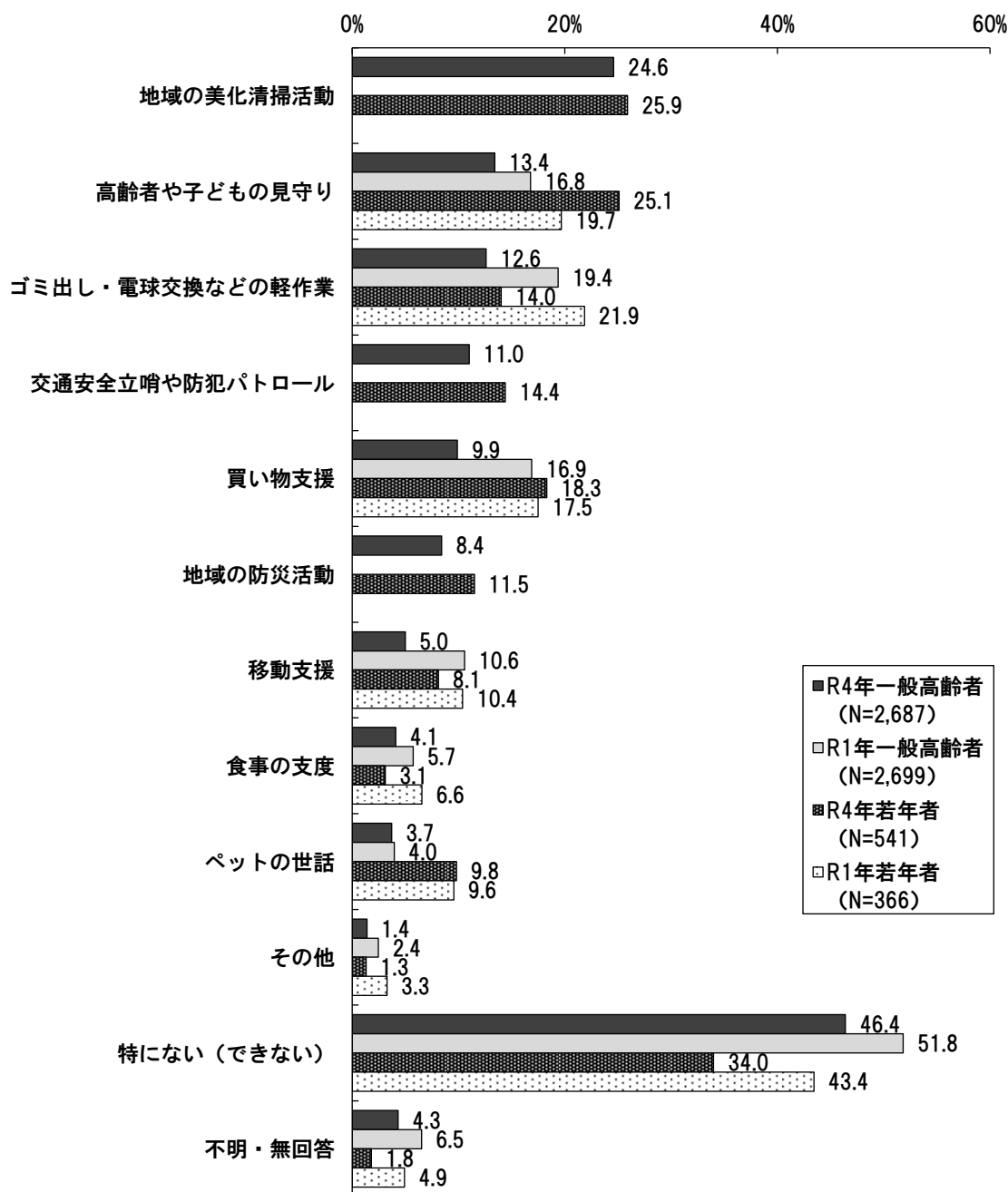
	高いところの作業（電球の交換等）	重いものの運搬（布団、灯油、米、粗大ごみなど）	屋外作業（草刈、庭木の手入れ等）	電化製品の操作	書類整理・事務手続き	部屋の掃除	食事の支度	外出の移動手段（買い物・通院等）	困っていることは特にない
全体 (N=2,687)	31.5	30.4	19.2	10.4	10.1	7.1	5.7	4.2	43.2
65～69歳 (N=621)	17.2	19.6	14.3	6.1	7.6	5.5	3.5	1.3	56.8
70～74歳 (N=766)	27.9	29.0	18.0	8.6	7.6	5.9	5.1	1.0	49.1
75～79歳 (N=585)	36.9	33.8	19.8	11.6	10.8	7.2	6.5	3.2	40.2
80～84歳 (N=365)	44.1	38.6	23.8	15.1	13.7	6.0	4.4	8.2	28.5
85歳以上 (N=186)	50.0	41.9	28.0	21.5	20.4	12.9	13.4	19.4	23.7

⑥地域のたすけあい活動でやってみたいこと（一般高齢者・若年者）

地域のたすけあい活動でやってみたいことについては、「地域の美化清掃活動」が一般高齢者・若年者とも最も多く、次いで「高齢者や子どもの見守り」が多くなっています。前回調査と比べると、一般高齢者・若年者ともに減少している項目が多く、「特にない（できない）」も減少していますが、これは前回調査に無かった選択肢が加わった影響があると考えられます。

■地域住民の力を生かしたたすけあい活動で、あなたがやってみたいと思うことはどれですか。

【複数回答】



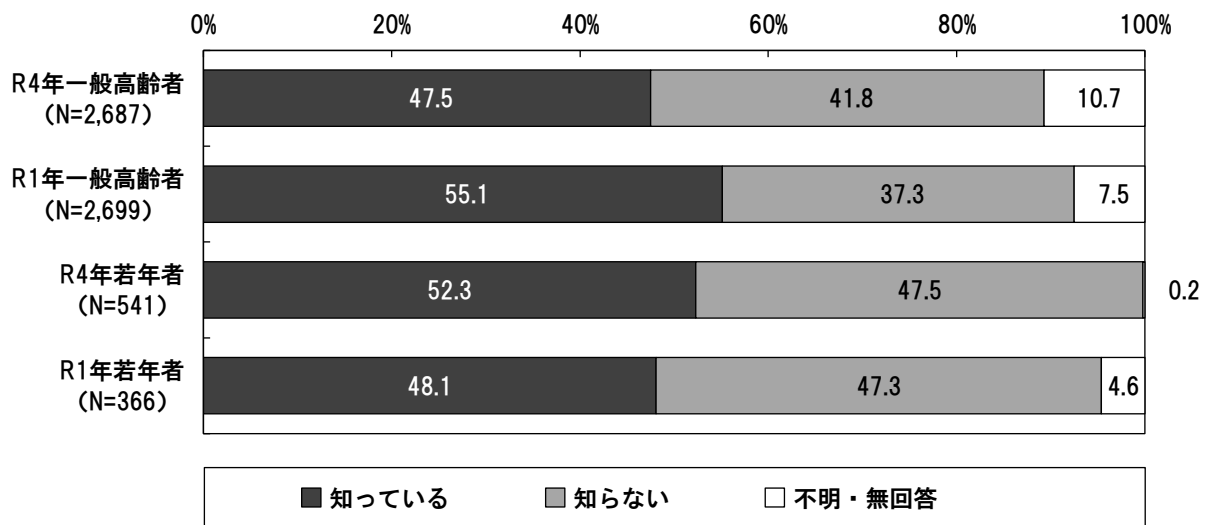
※R1年の質問は「地域住民の力を生かした高齢者支援で、あなたがやってみたいと思うことはどれですか」であり、「高齢者や子どもの見守り」は「高齢者の見守り」。「地域の美化清掃活動」「交通安全立哨や防犯パトロール」「地域の防災活動」はR4年のみ。R1年若年者は55～64歳のデータで比較

⑦地域包括支援センターの認知度（一般高齢者・若年者）

地域包括支援センターを「知っている」という回答は、前回調査と比べて一般高齢者では減少し、若年者ではやや増加しています。

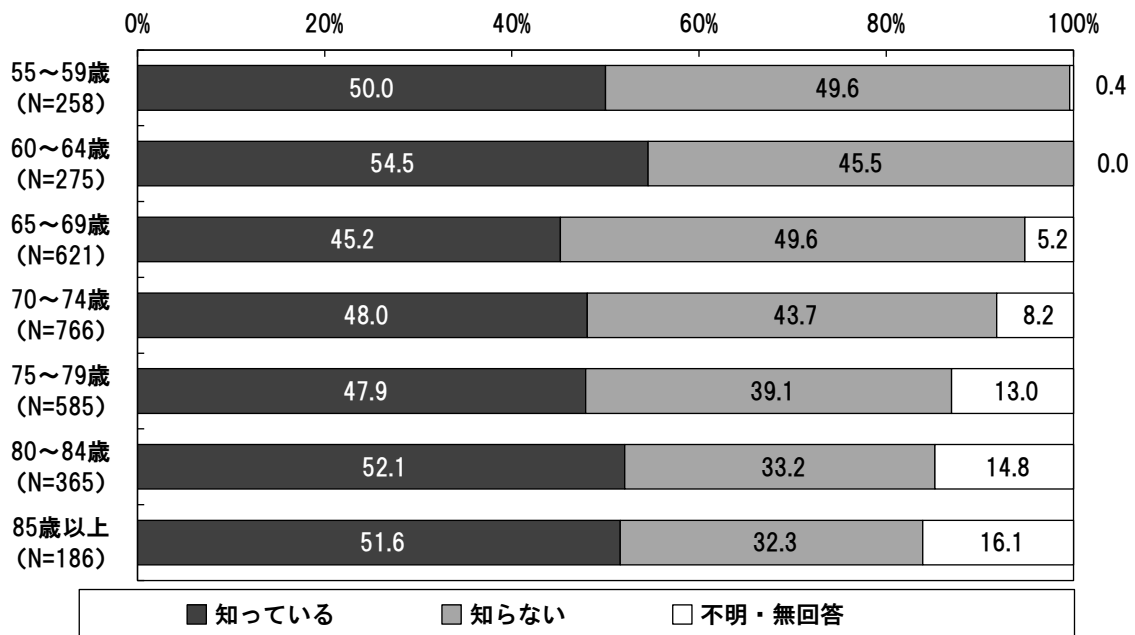
年齢別にみると、「知っている」が最も多いのは60～64歳ですが、「不明・無回答」を除くと80歳以上の認知率が高くなっています。

■高齢者の生活について相談ができる「地域包括支援センター」が市内にあるのを知っていますか。



※R1年若年者は55～64歳のデータで比較

■年齢別に見た地域包括支援センターの認知度



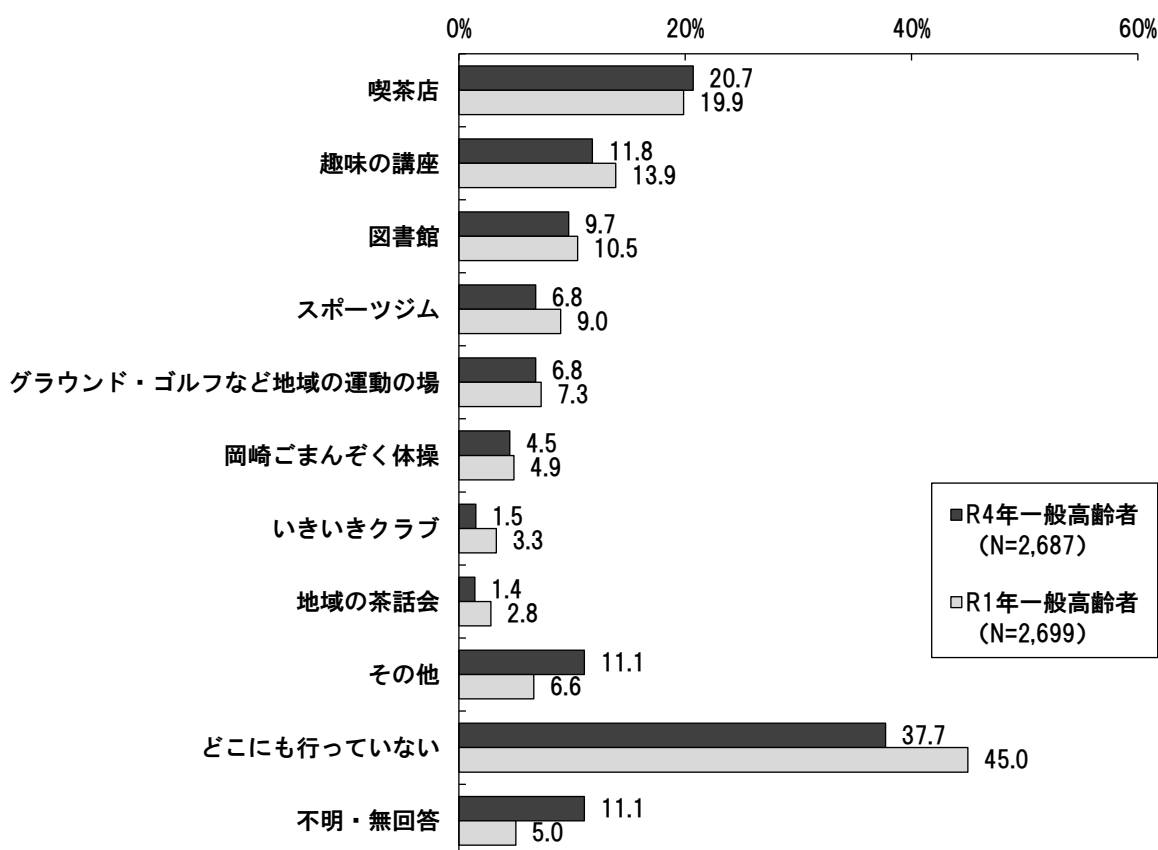
※55～64歳は若年者調査、65歳以上は一般高齢者調査結果より。

⑧自宅以外の居場所（通いの場）（一般高齢者）

自宅以外の居場所（通いの場）については、「どこにも行っていない」を除くと、「喫茶店」が20.7%で最も多く、次いで「趣味の講座」が11.8%となっています。前回調査と大きな差はありませんが、「喫茶店」以外の場が減少し、「その他」が増加しています。「どこにも行っていない」は減少しています。

その他回答については、記載された内容で多かったのは、職場・仕事・会社が50件、畑・菜園が40件、親族・友人の家が32件となっています。

■自宅以外で居場所（通いの場）はありますか。【複数回答】



※R1年の質問は「趣味の講座、ジムや地域での運動の場などの「通いの場」に行っていますか」で、選択肢はR4年と同じ。

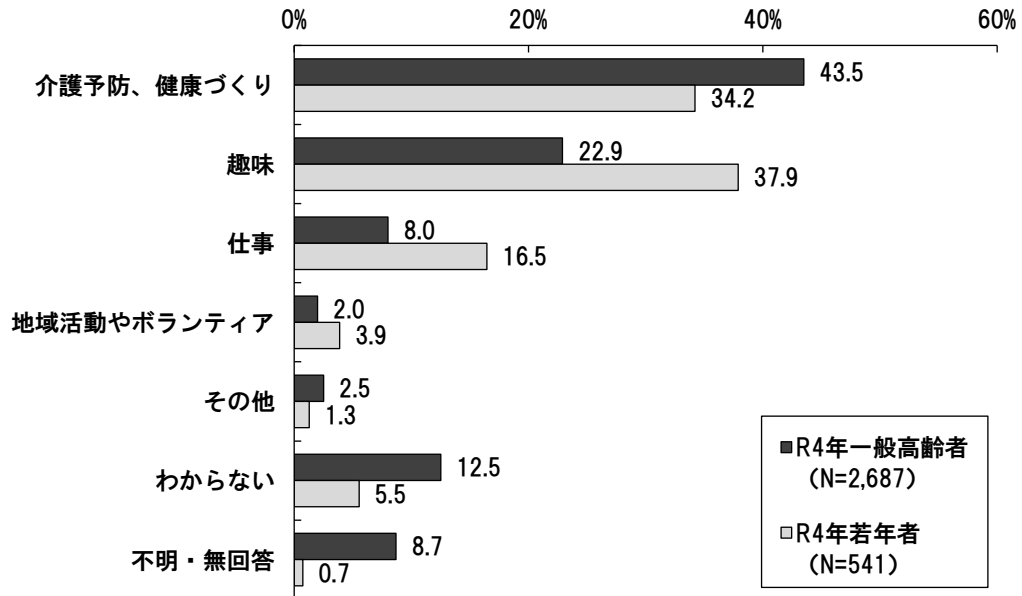
R4年その他回答

項目	件数	項目	件数
職場・仕事・会社	50	体操	13
畑・菜園・農園	40	カラオケ	12
親族・友人の家	32	散歩・ウォーキング	10
ゴルフ	18	釣り・フィッシング	10
パチンコ・競艇	14		

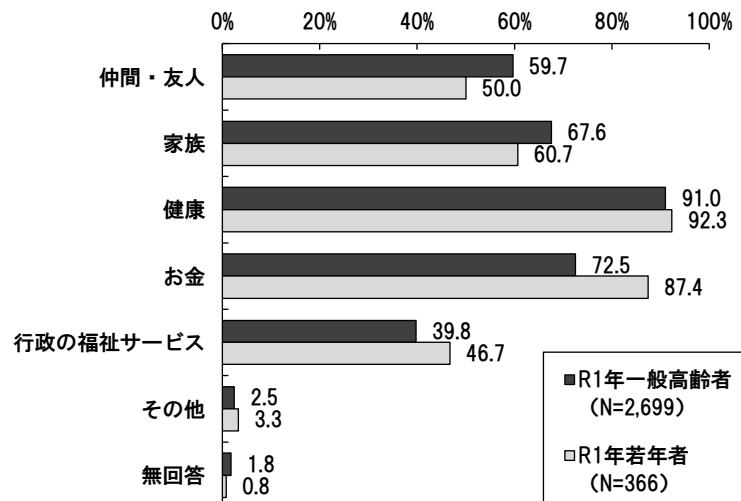
⑨充実した老後を過ごすために、したいこと（一般高齢者・若年者）

充実した老後を過ごすためにしたいことについては、一般高齢者では「介護予防、健康づくり」、若年者では「趣味」が最も多くなっています。

■充実した老後を過ごすために、あなたがしたいことは何ですか。



■参考：（R1年）充実した老後を過ごすために何が必要だと思いますか。【複数回答】



3. 在宅介護の状況について

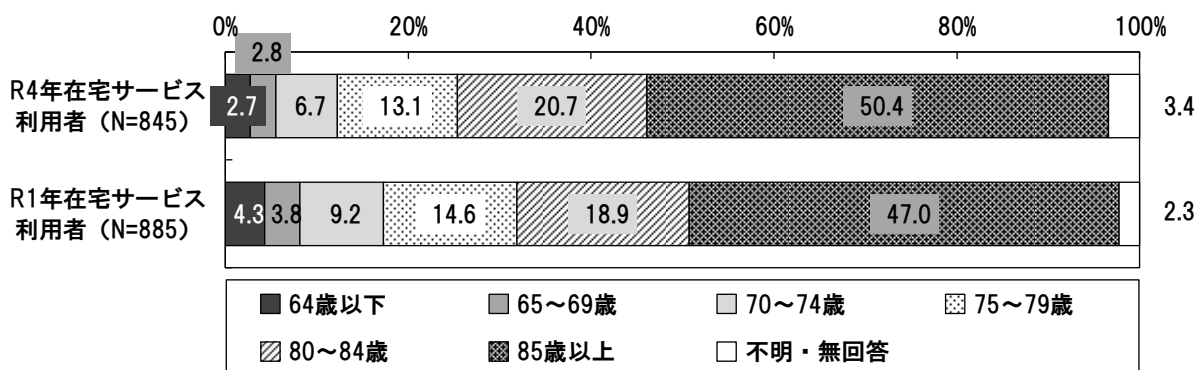
(1)在宅サービス利用者について

①年齢（在宅サービス利用者）

在宅サービス利用者の年齢については、「85歳以上」が50.4%で最も多く、次いで「80～84歳」が20.7%となっています。

前回調査と比べると、80歳以上がやや増加し、80歳未満がやや減少しています。

■年齢（令和4年11月1日現在）をお答えください。

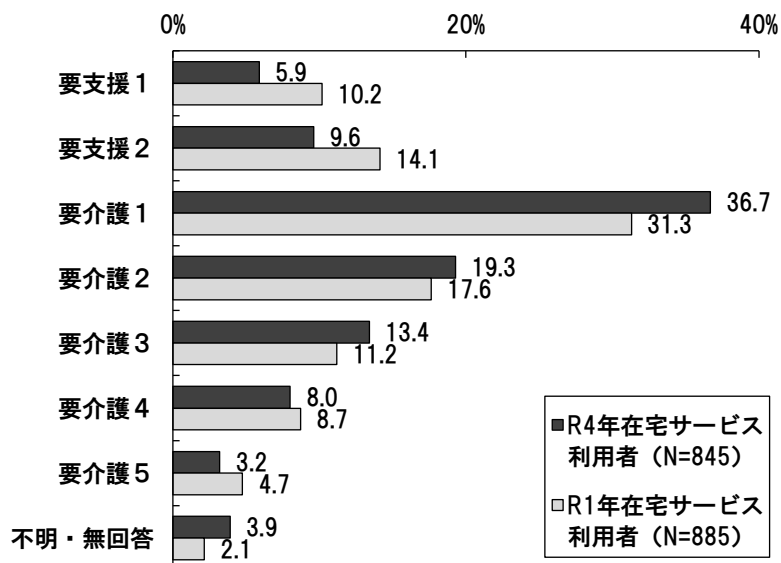


②要介護度（在宅サービス利用者）

在宅サービス利用者の現在の要介護度については、「要介護1」が36.7%で最も多く、次いで「要介護2」が19.3%となっています。

前回調査と比べると、「要支援1」「要支援2」が減少し、「要介護1」～「要介護3」がやや増加しています。

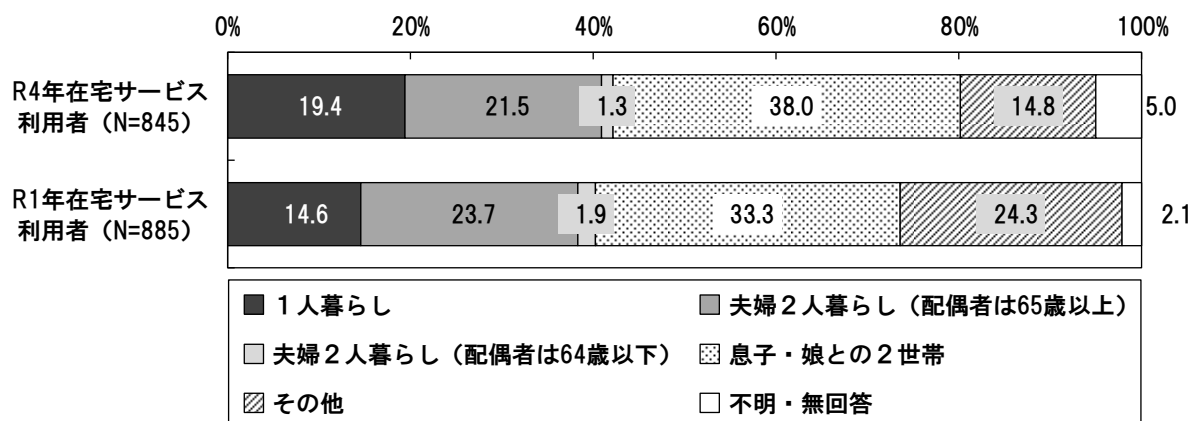
■現在の要介護度はどれですか。



③世帯状況（在宅サービス利用者）

在宅サービス利用者の世帯状況については、「息子・娘との2世帯」が38.0%で最も多くなっています。前回調査と比べると、「1人暮らし」「息子・娘との2世帯」がやや増加し、「その他」が減少しています。

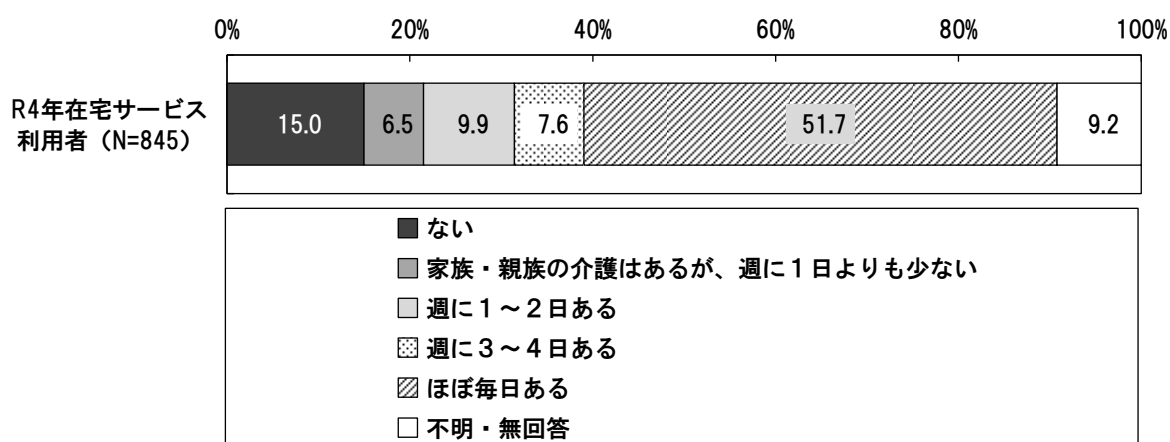
■現在の世帯状況をお答えください。



④家族・親族からの介護の頻度（在宅サービス利用者）

家族や親族からの介護の頻度については、「ほぼ毎日ある」が51.7%で最も多くなっています。また、「ない」が15.0%となっています。

■ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。

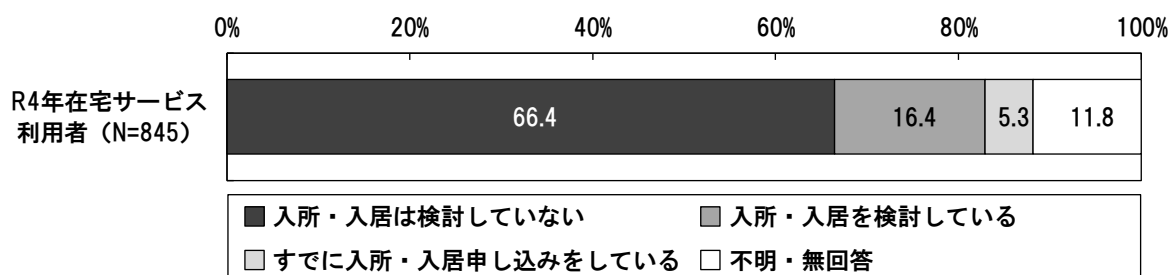


⑤施設等への入所の検討状況（在宅サービス利用者）

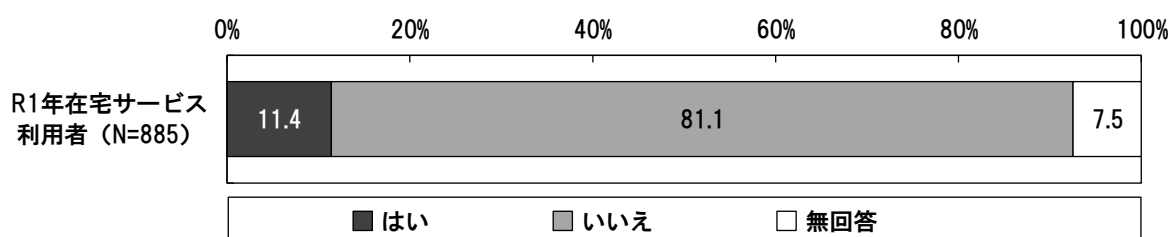
施設等への入所の検討状況については、「すでに入所・入居申し込みをしている」が5.3%、「入所・入居を検討している」が16.4%となっています。

前回調査とは質問の形式が異なりますが、比べると入所申し込みをしている人が減少しています。

■現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。



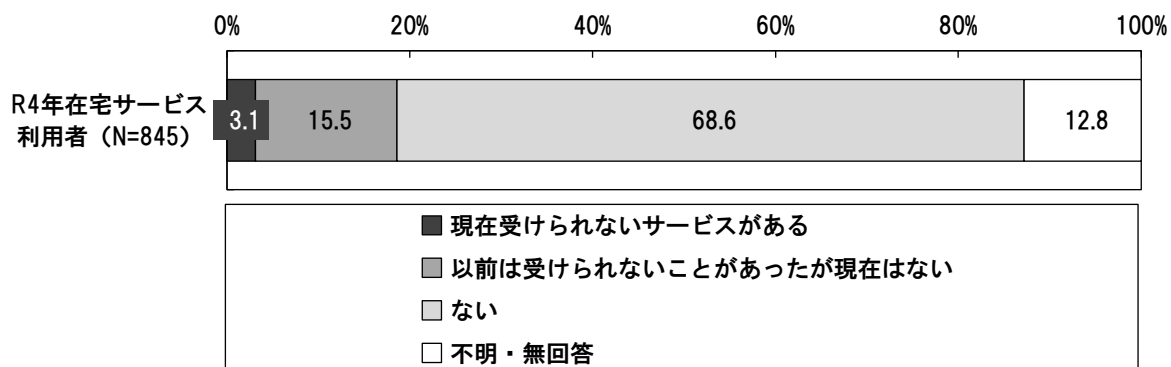
■参考：（R1年）現在、施設などに入所申し込みをしていますか。



⑥感染症拡大の影響（在宅サービス利用者）

感染症拡大の影響で必要な介護サービスが受けられないことについては、「現在受けられないサービスがある」が3.1%、「以前は受けられないことがあったが現在は無い」が15.5%となっています。

■感染症拡大の影響で、必要な介護サービスを受けられないことがありますか。



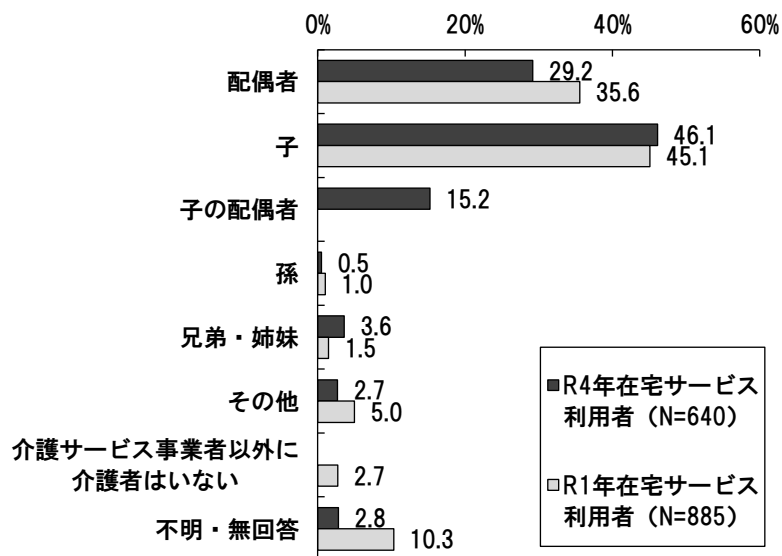
(2)主な介護者の状況

①主な介護者の属性

主な介護者については、「子」が46.1%で最も多く、次いで「配偶者」が29.2%となっています。

前回調査とは質問の形式が異なるため単純な比較はできませんが、「配偶者」がやや減少しています。

■主な介護者の方は、どなたですか。



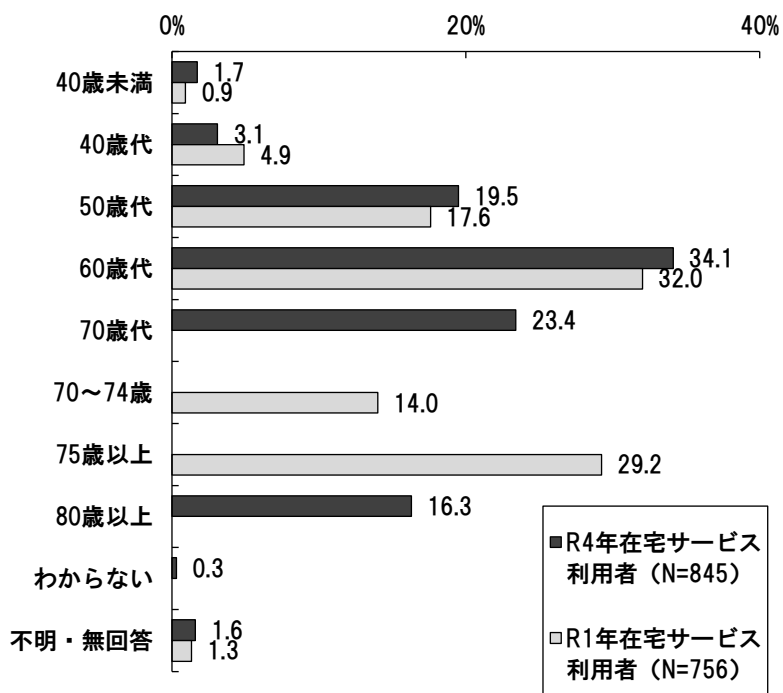
※R4年は家族や親族からの介護を受けている人のみへの質問。R1年の「子」には「子の配偶者」、「孫」には「孫の配偶者」を含む。「介護サービス事業者以外に介護者はいない」はR1年のみ。

②主な介護者の年齢

主な介護者の年齢については、「60歳代」が34.1%で最も多く、次いで「70歳代」が23.4%、「50歳代」が19.5%となっています。

前回とは選択肢の区分が異なりますが、70歳以上の回答の合計は、R1年43.2%、R4年39.7%で、やや減少しています。

■主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。

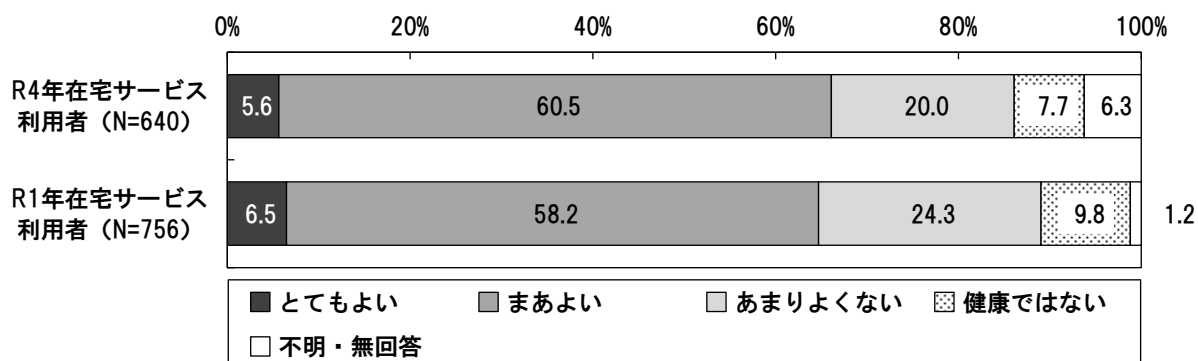


※R4年の「20歳未満」1件、20歳代4件、30歳代6件は合算して「40歳未満」と表記。「70~74歳」「75歳以上」の区分はR1年のみ。

③主な介護者の健康状態

主な介護者の健康状態については、「あまり良くない」が20.0%、「健康ではない」が7.7%で、約3割は健康状態が良くないと回答しています。

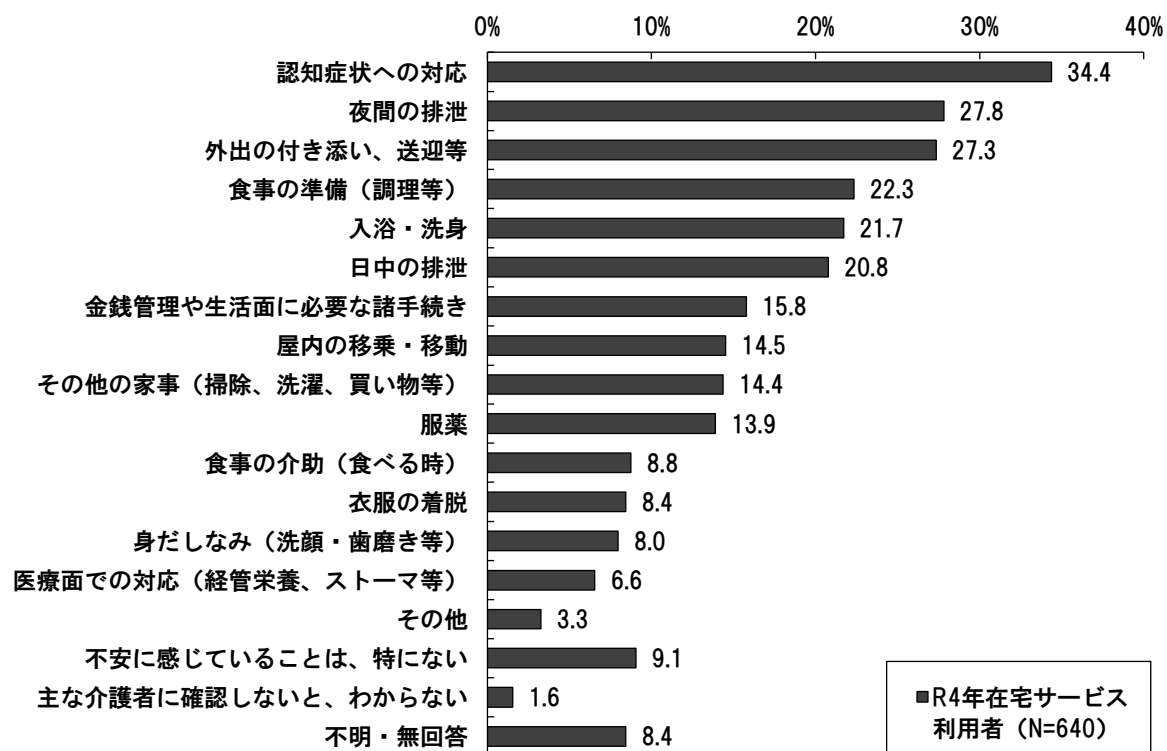
■主に介護をしている方の健康状態は、どれにあてはまりますか。



④主な介護者が不安を感じる介護

主な介護者が不安を感じる介護については、「認知症状への対応」が34.4%で最も多く、次いで「夜間の排泄」が27.8%、「外出の付き添い、送迎等」が27.3%となっています。

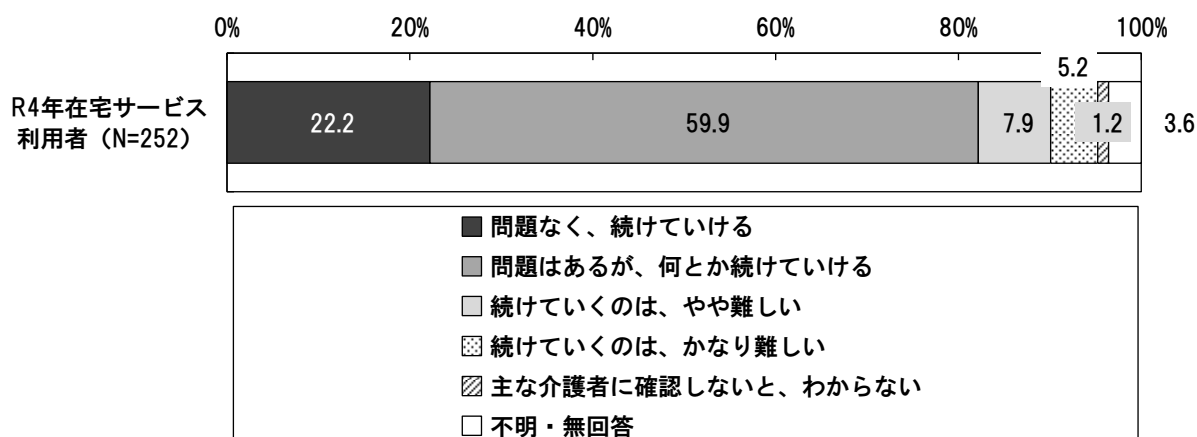
■現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。【3つまで複数回答】



⑤在宅介護の継続について

就労している主な介護者の在宅介護の継続については、「問題はあるが、何とか続けていける」が59.9%、「問題なく、続けていける」と合わせると約8割は続けていけると回答しています。他方、続けていくことに難しさを感じている回答は13.1%となっています。

■主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。



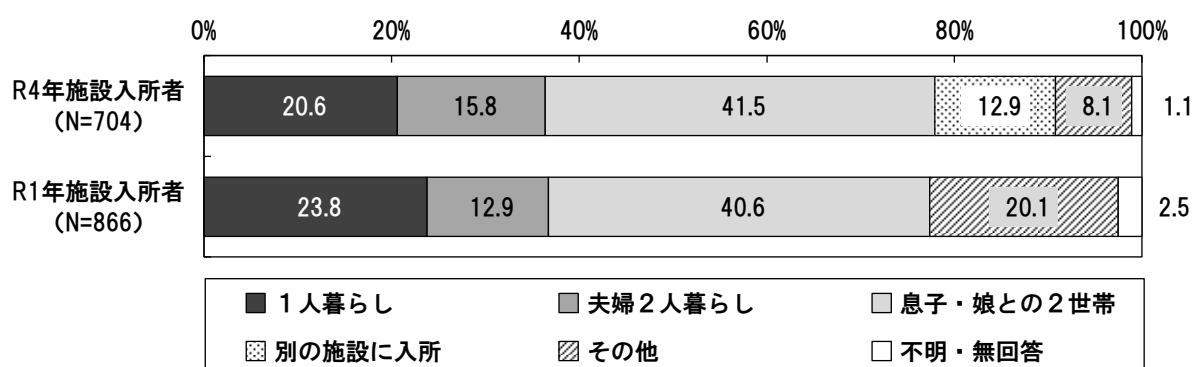
4. 施設入所者の状況について

(1)入所前の状況と要介護度

①入所前の世帯状況（施設入所者）

入所前の世帯状況については、「息子・娘との2世帯」が41.5%で最も多く、次いで「1人暮らし」が20.6%となっています。

■現在の施設に入所する前の状況をお答えください。

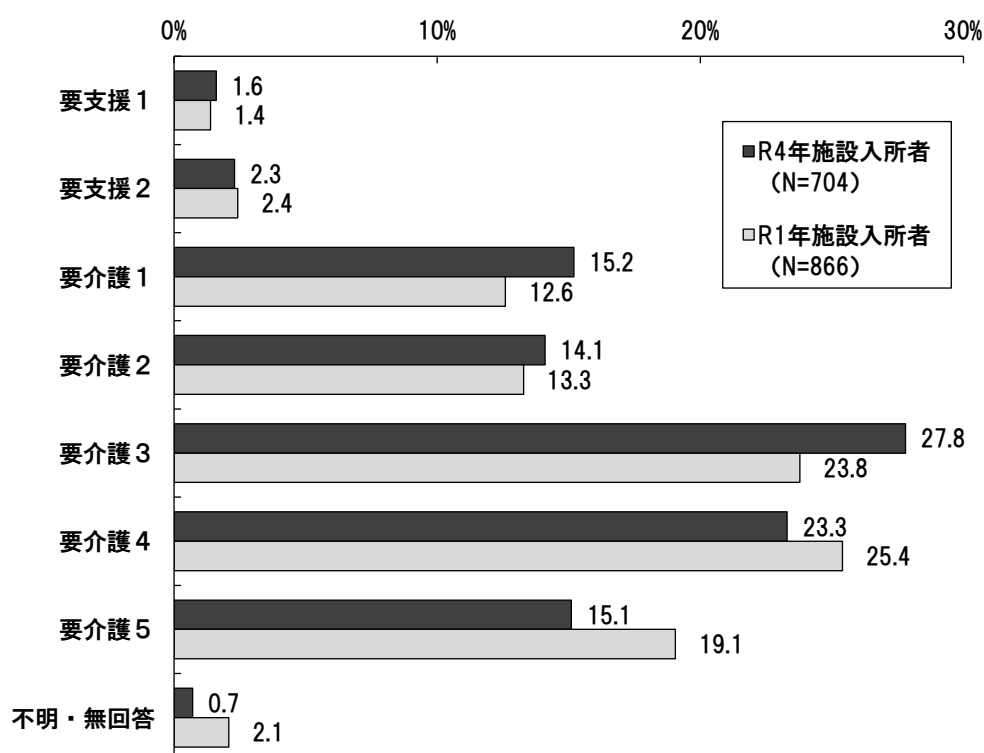


※R1年の質問は「入所前の世帯状況をお答えください」であり、「別の施設に入所」はR4年のみ。

②要介護度（施設入所者）

前回調査と比べて要介護1、要介護3がやや増加し、要介護5がやや減少しています。

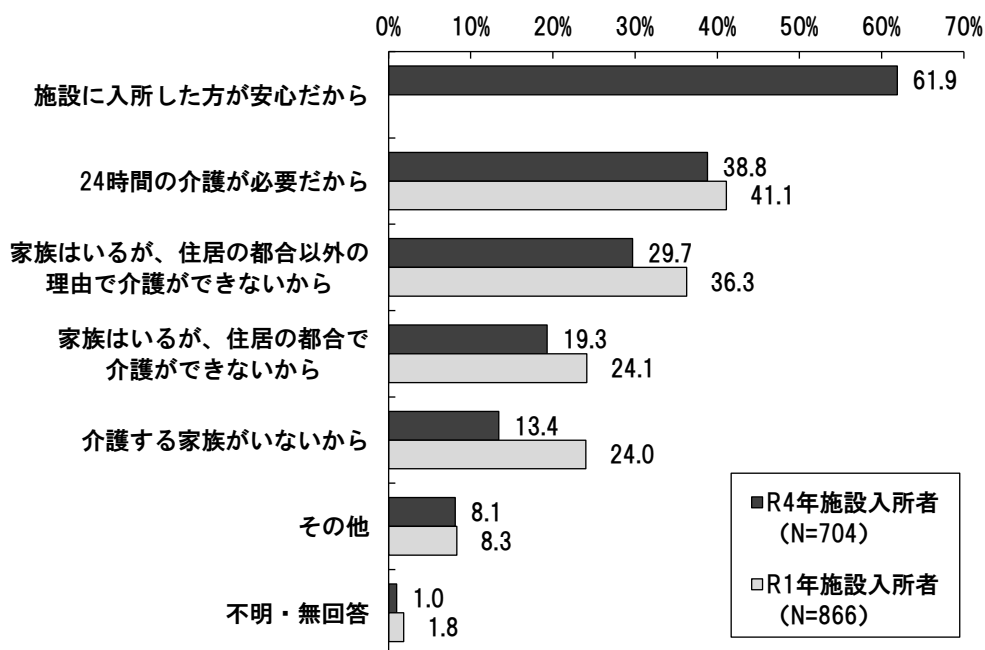
■ご本人の要支援・要介護度はどれですか。



③施設入所の理由（施設入所者）

施設入所の理由は「施設に入所した方が安心だから」が61.9%で最も多く、次いで「24時間の介護が必要だから」が38.8%となっています。

■施設入所を希望した理由は何ですか。【複数回答】

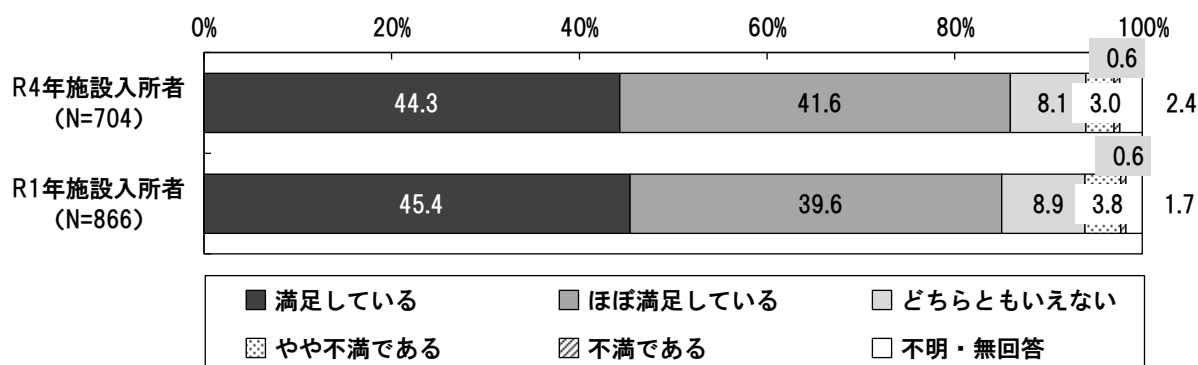


※「施設に入所した方が安心だから」はR4年のみ。

(2)入所施設への満足度

施設サービスへの満足度については、「満足している」が44.3%、「ほぼ満足している」が41.6%で、8割以上が肯定的な回答となっています。「やや不満である」または「不満である」という回答は3.6%となっています。前回調査と違いはあまりありません。

■現在、入所している施設のサービスに満足していますか。



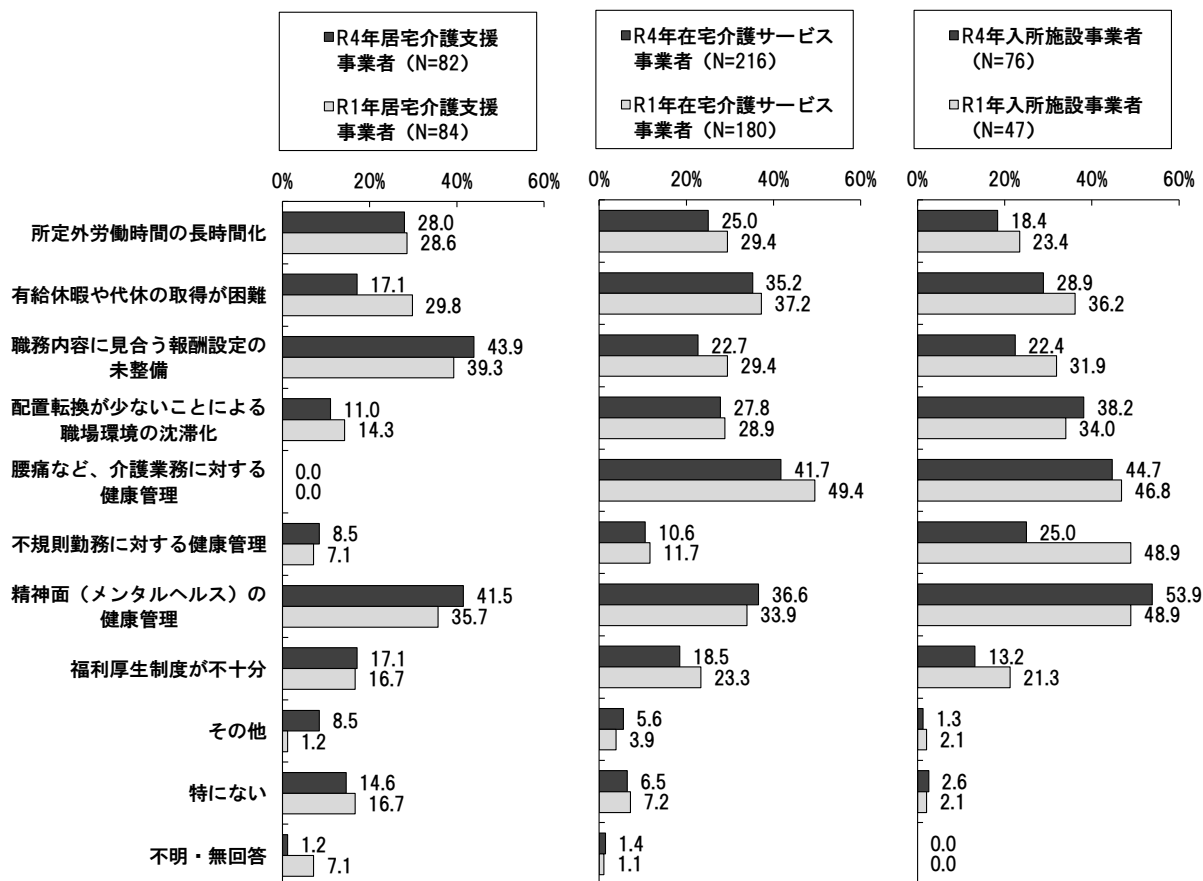
5. 介護サービス事業所等の状況について

(1) 事業所運営の課題

① 職員の処遇における課題（居宅介護支援事業者・在宅介護サービス事業者・入所施設事業者）

職員の処遇における課題については、居宅介護支援事業者は「職務内容に見合う報酬設定の未整備」、在宅介護サービス事業者は「腰痛など、介護業務に対する健康管理」、入所施設事業者は「精神面（メンタルヘルス）の健康管理」が最も多くなっています。前回調査と比べると、居宅介護支援事業者の「有給休暇や代休の取得が困難」、入所施設事業者の「不規則勤務に対する健康管理」が減少しています。

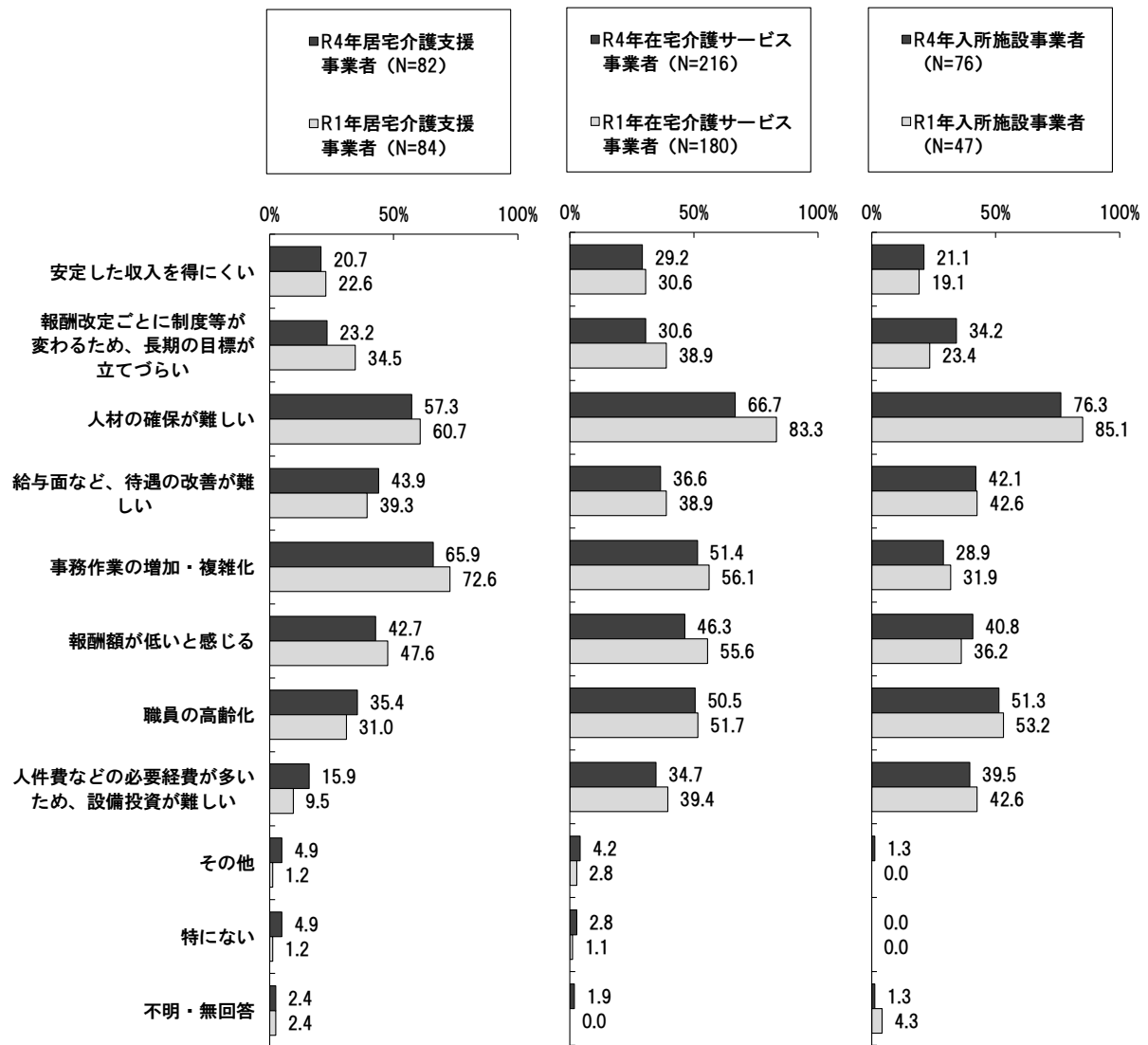
■ 職員の処遇における課題は何ですか。【複数回答】



②経営面での課題（居宅介護支援事業者・在宅介護サービス事業者・入所施設事業者）

経営面での課題については、居宅介護支援事業者は「事務作業の増加・複雑化」、在宅介護サービス事業者、入所施設事業者は「人材の確保が難しい」が最も多くなっています。前回調査と比べると、在宅介護サービス事業者の「人材の確保が難しい」がやや減少し、入所施設事業者の「報酬改定ごとに制度等が変わるため、長期の目標が立てづらい」がやや増加しています。

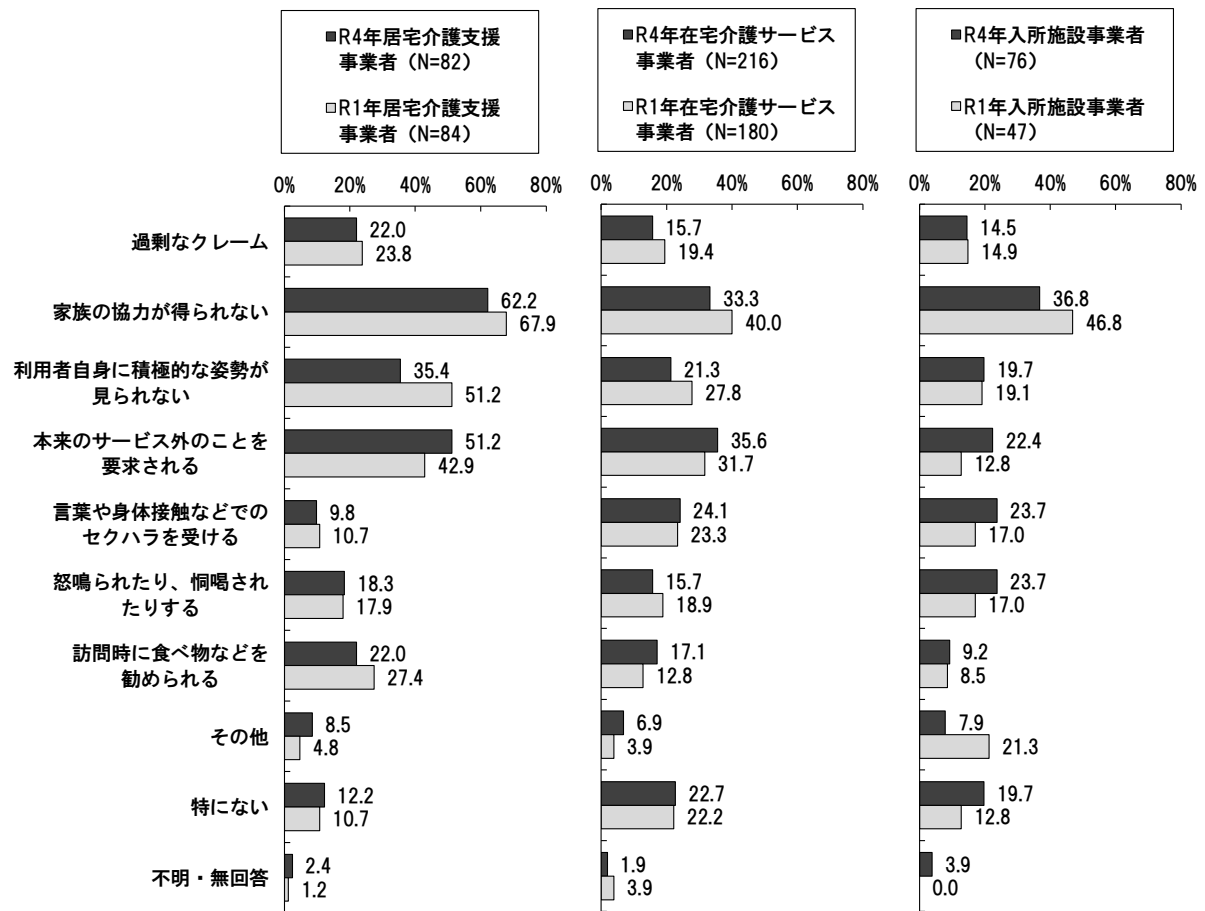
■経営面における問題点や課題は何ですか。【複数回答】



③利用者に関することで困っていること（居宅介護支援事業者・在宅介護サービス事業者・入所施設事業者）

利用者に関して困っていることについては、居宅介護支援事業者、入所施設事業者は「家族の協力が得られない」、在宅介護サービス事業者は「本来のサービス外のことを要求される」が最も多くなっています。前回調査と比べると、居宅介護支援事業者の「利用者自身に積極的な姿勢が見られない」が減少し、入所施設事業者の「本来のサービス外のことを要求される」がやや増加しています。

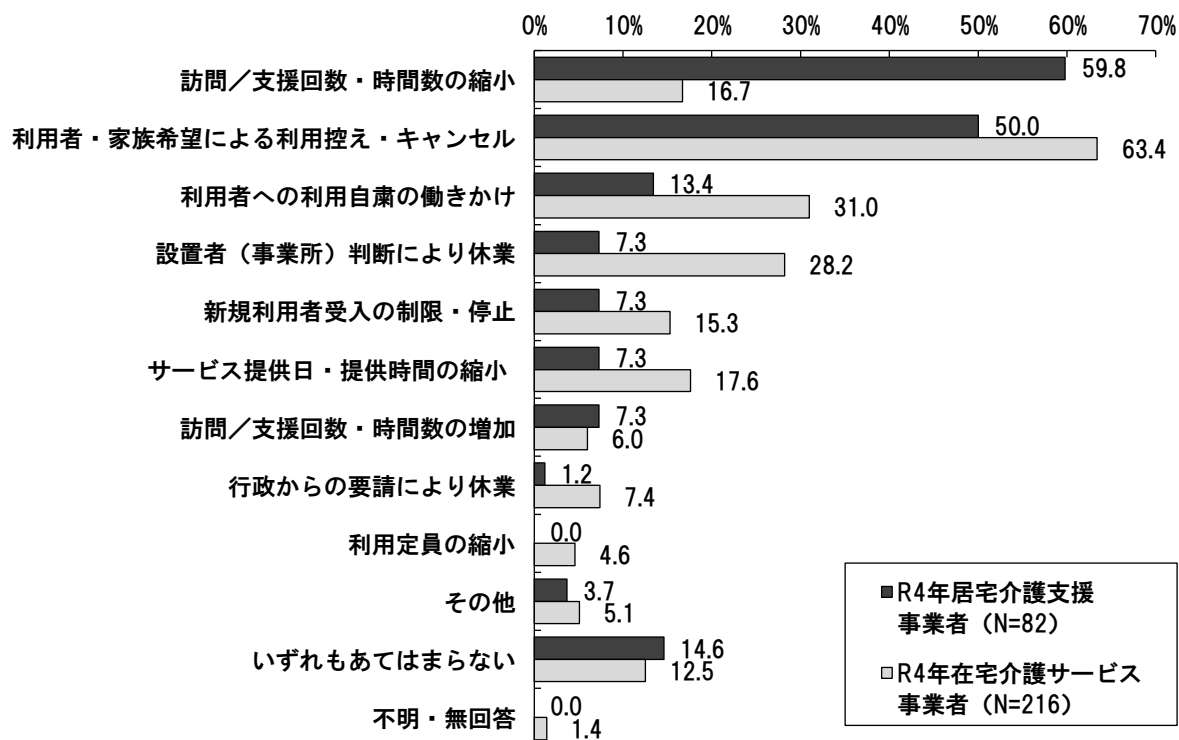
■利用者に関することで、お困りのことは何ですか。【複数回答】



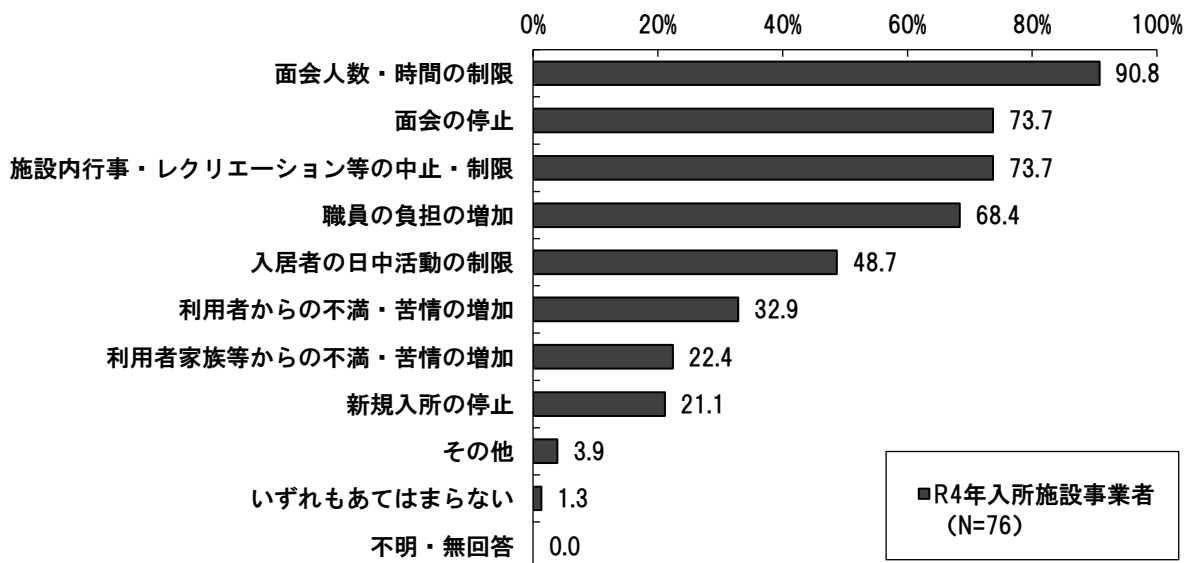
④新型コロナウイルス感染症の影響（居宅介護支援事業者・在宅介護サービス事業者・入所施設事業者）

新型コロナウイルス感染症の影響については、居宅介護支援事業者で「訪問／支援回数・時間数の縮小」、在宅介護サービス事業者で「利用者・家族希望による利用控え・キャンセル」、入所施設事業者で「面会人数・時間の制限」が最も多くなっています。

■過去1年間の、新型コロナウイルス感染症の、事業所運営への影響について、あてはまるものをお答えください。【複数回答】（居宅介護支援事業者・在宅介護サービス事業者）



■過去1年間の、新型コロナウイルス感染症の影響として、あてはまるものをお答えください。【複数回答】（入所施設事業者）

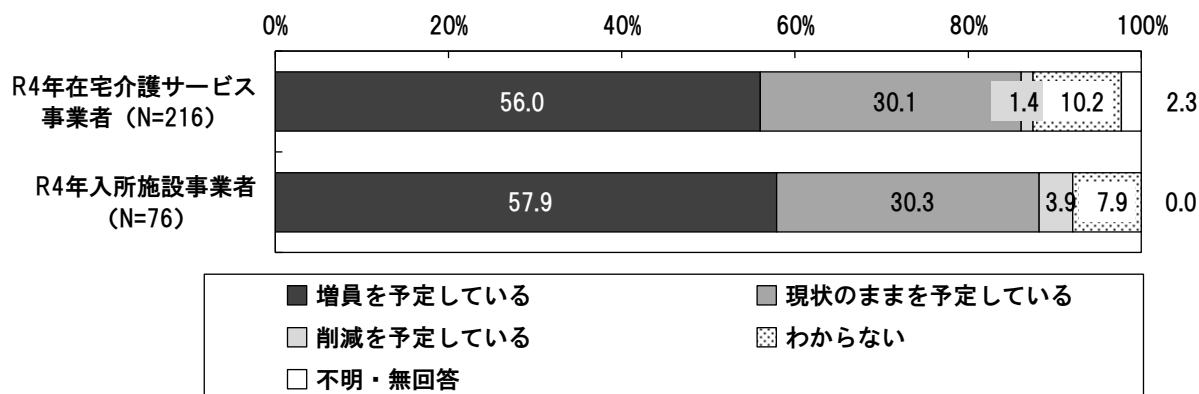


(2)人材確保の状況

①介護職員の雇用の予定（在宅介護サービス事業者・入所施設事業者）

在宅介護サービス事業者、入所施設事業者共に、半数以上が「増員を予定している」と回答しています。

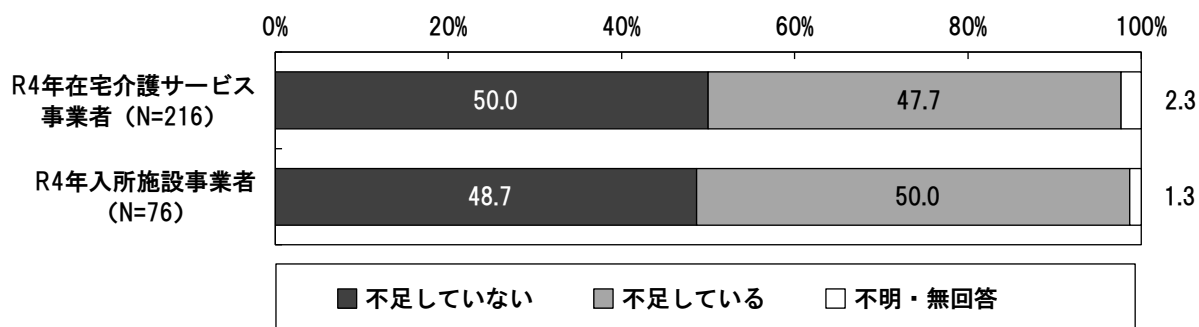
■今後の介護職員の雇用人数の予定をお答えください。



②介護職員の不足の状況（在宅介護サービス事業者・入所施設事業者）

在宅介護サービス事業者と入所施設事業者の約半数が、介護職員の人数が不足していると回答しています。

■現在の業務を行ううえで、介護職員の人数が不足していますか。

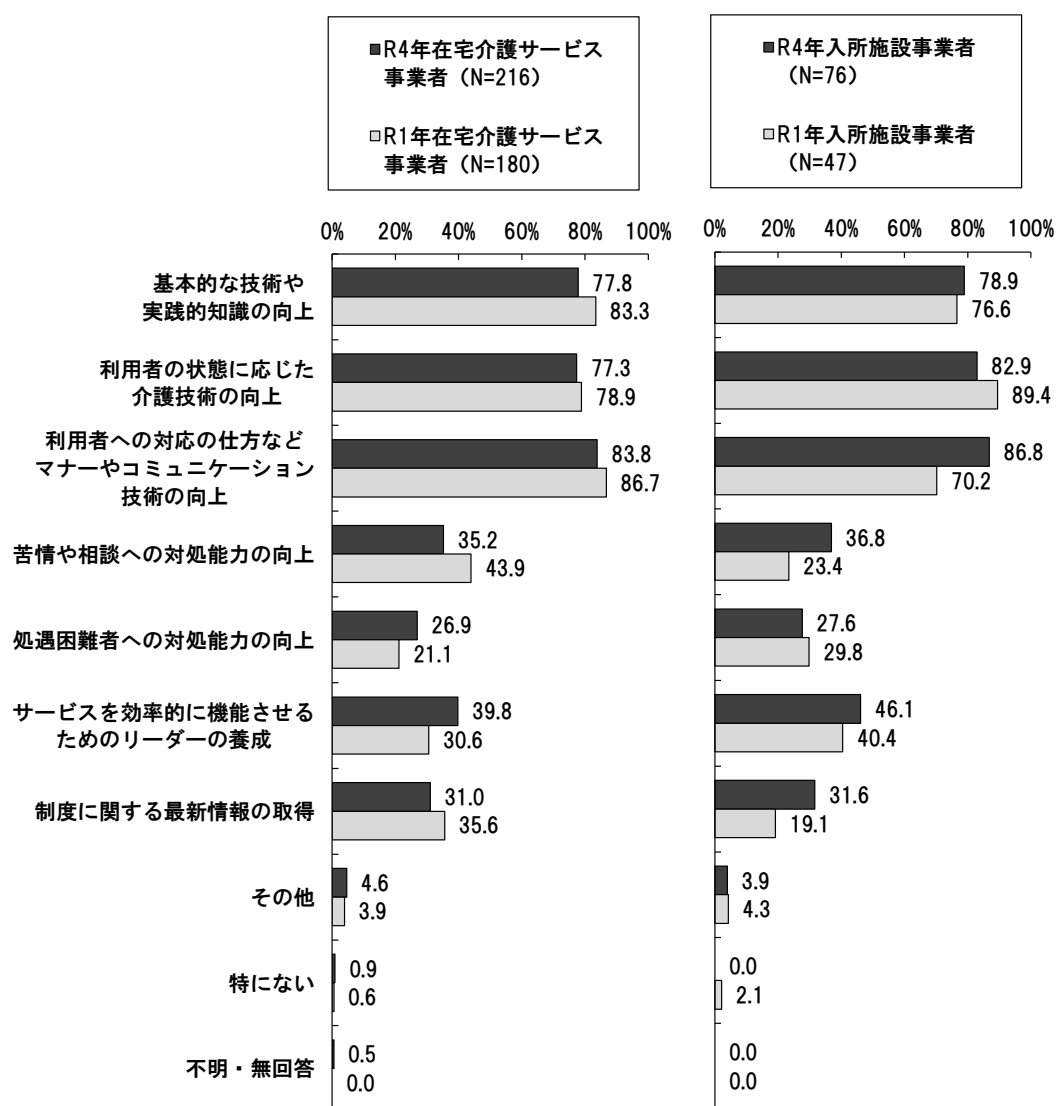


③職員の質の確保・向上を図るための取組（在宅介護サービス事業者・入所施設事業者）

職員の質の確保・向上を図るための取組については、在宅介護サービス事業者、入所施設事業者とも「利用者への対応の仕方などマナーやコミュニケーション技術の向上」が最も多くなっています。前回調査と比べると、入所施設事業者で「苦情や相談への対処能力の向上」「制度に関する最新情報の取得」が増加しています。

■職員の質の確保・向上を図るために、どのような点を重視して取り組んでいますか。

【複数回答】



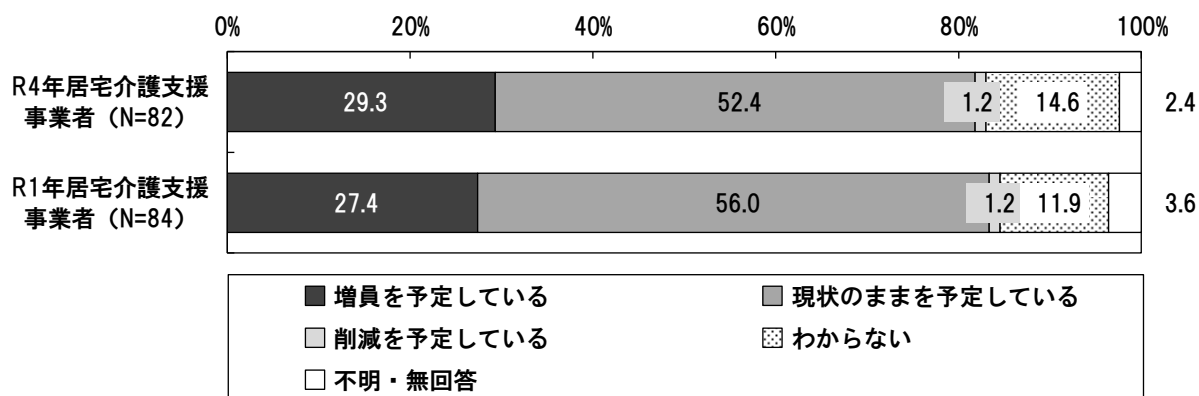
6. ケアマネジメントについて

(1)ケアマネジャーの人材確保の状況

①ケアマネジャーの雇用の予定（居宅介護支援事業者）

今後のケアマネジャーの雇用については、約3割の事業者が「増員を予定している」と回答しています。

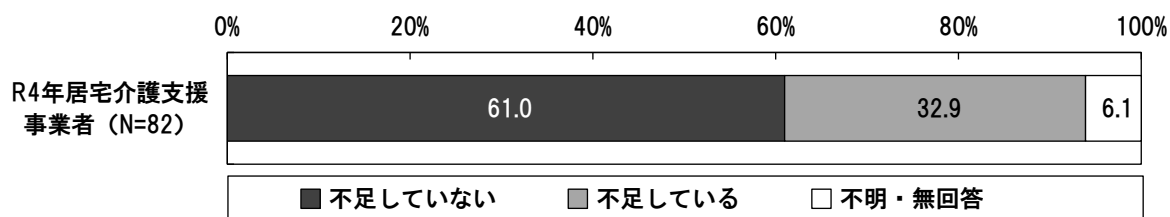
■今後のケアマネジャーの雇用人数の予定をお答えください。



②ケアマネジャーの人数不足の状況（居宅介護支援事業者）

約3割の事業者が、現在の業務を行ううえで、ケアマネジャーの人数が「不足している」と回答しています。

■現在の業務を行ううえで、ケアマネジャーの人数が不足していますか。

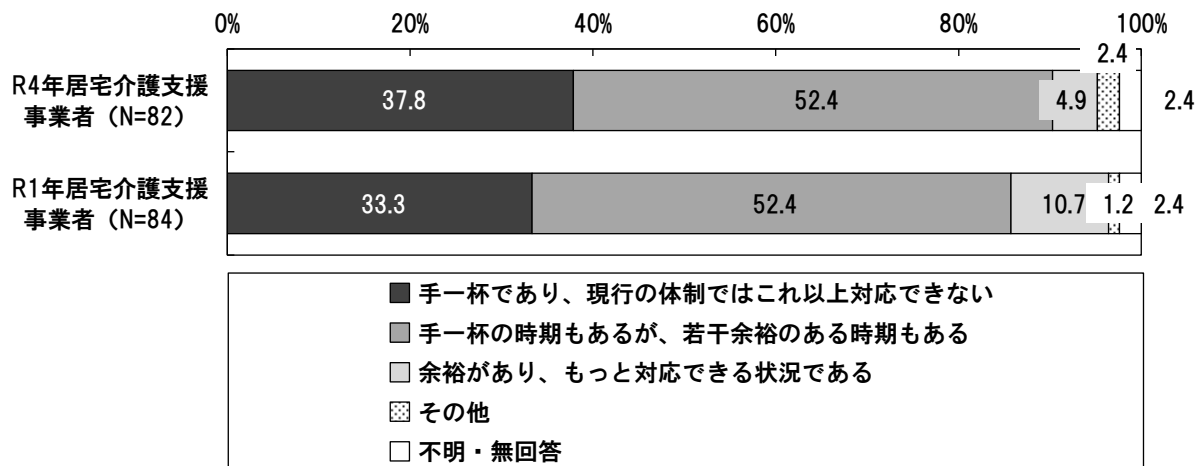


(2)ケアプランの作成について

①ケアプラン作成の現状（居宅介護支援事業者）

前回調査と比べると、「手一杯であり、現行の体制ではこれ以上対応できない」がやや増加し、「余裕があり、もっと対応できる状況である」がやや減少しています。

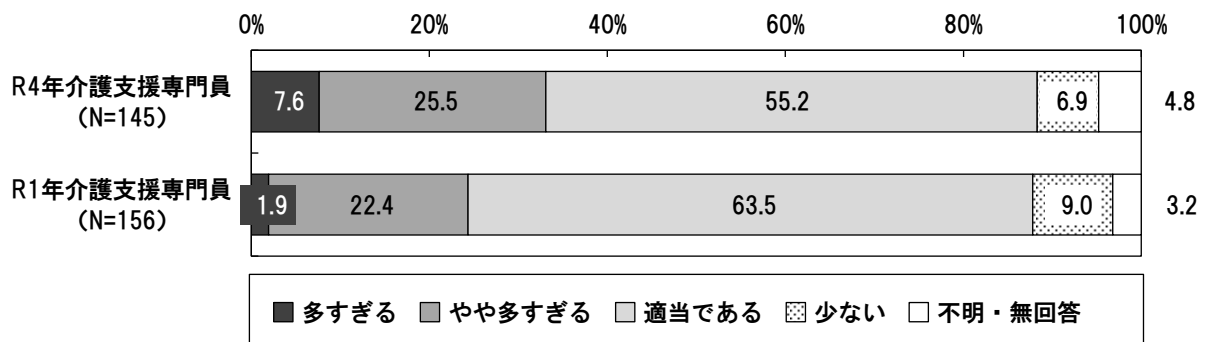
■ケアプランの作成について、貴事業所の現状をお答えください。



②担当している利用者の人数について（介護支援専門員）

担当している人数については、全体の約3分の1が「多すぎる」または「やや多すぎる」と回答しています。前回調査と比べて「多すぎる」または「やや多すぎる」が増加しています。

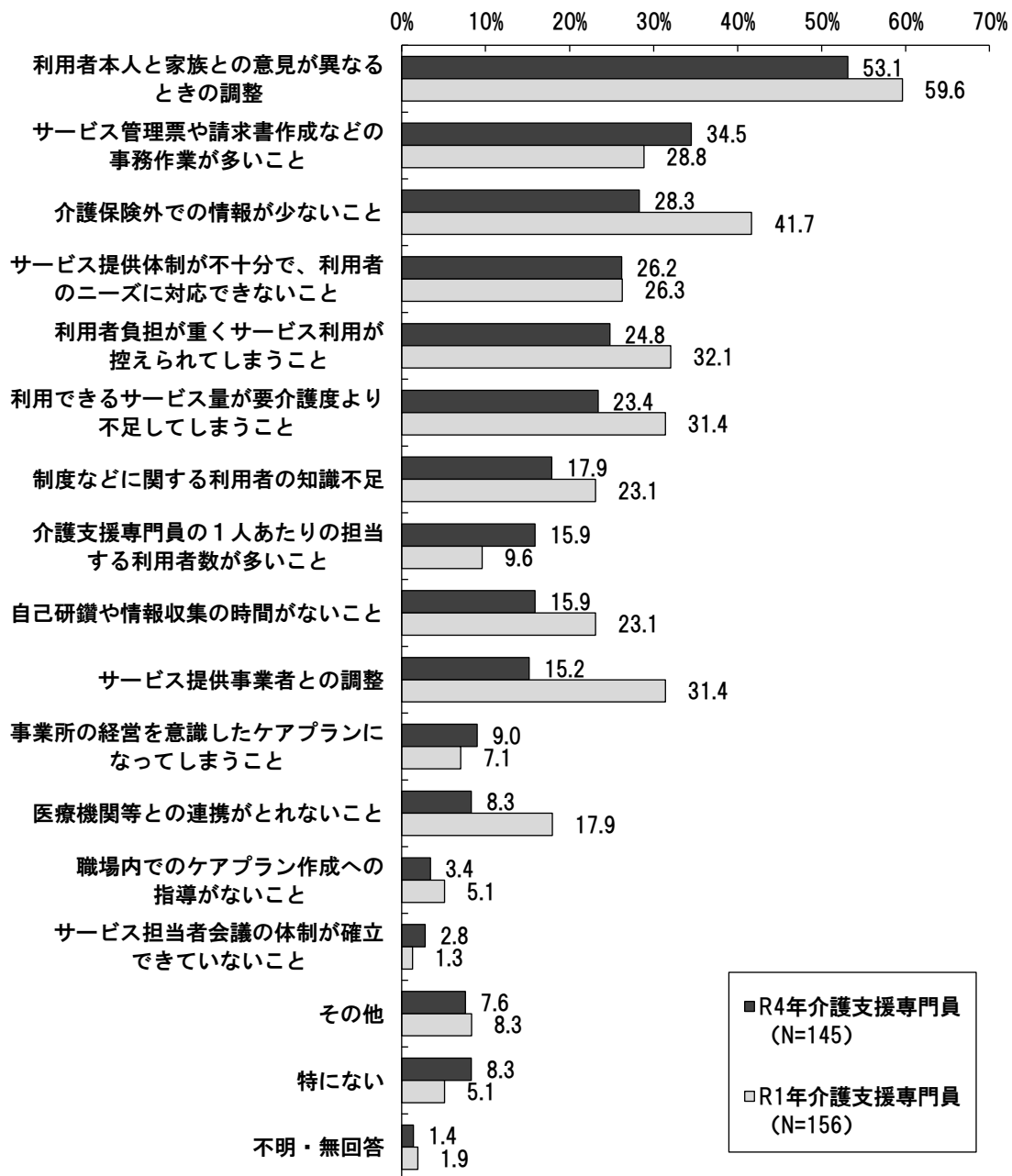
■担当している利用者の人数は、適当ですか。



③ケアプラン作成時に困ること（介護支援専門員）

ケアプラン作成時に困ることについては、「利用者本人と家族との意見が異なるときの調整」が53.1%で最も多く、次いで「サービス管理票や請求書作成などの事務作業が多いこと」が34.5%となっています。前回調査と比べると、「介護保険外での情報が少ないこと」「サービス提供事業者との調整」が減少し、「介護支援専門員の1人あたりの担当する利用者数が多いこと」がやや増加しています。

■ケアプランの作成時に困っていることは何ですか。【複数回答】

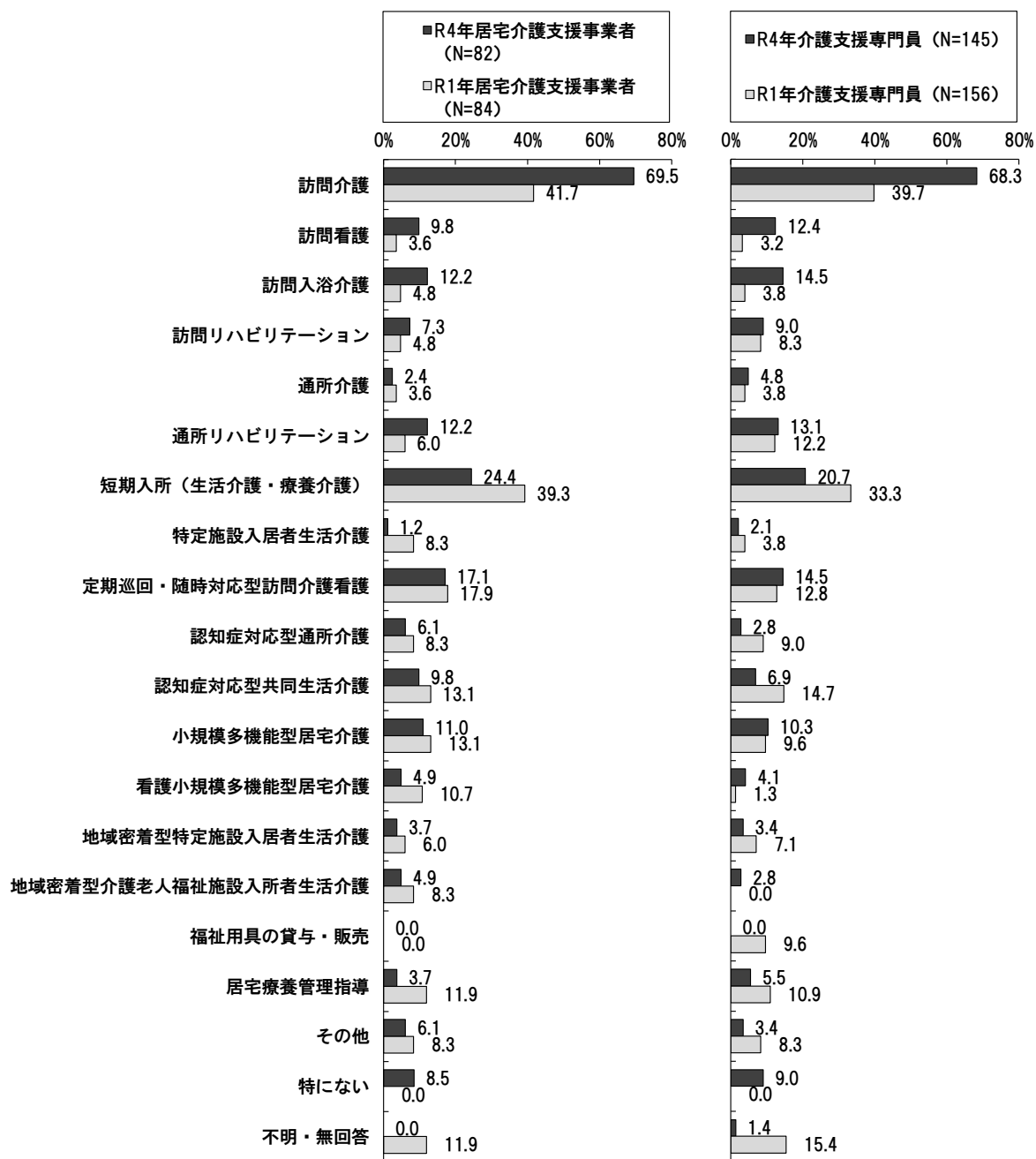


(3)介護サービスについて

供給が不足していると感じるサービスについては、居宅介護支援事業者・介護支援専門員ともに「訪問介護」が最も多く、次いで「短期入所（生活介護・療養介護）」となっています。前回調査と比較すると、居宅介護支援事業者・介護支援専門員ともに「訪問介護」が増加し、「短期入所（生活介護・療養介護）」が減少しています。

①供給が不足していると感じるサービス（居宅介護支援事業者・介護支援専門員）

■介護・福祉サービスのうち、供給が不足していると感じるサービスは何ですか。【複数回答】



7. 調査結果のまとめ

(1)本市の高齢者の状況

- 前回調査と比べて、回答者の年齢構成がやや高齢化し、単身世帯、夫婦のみ世帯の割合がわずかに増加しています。在宅サービス利用者においても、単身世帯の割合がやや増加しています。
- 運動機能の低下、認知機能の低下、IADLの低下等の判定において、前回調査と比べて低下ありと判定される割合がわずかに増加しています。
- 一般高齢者の日常生活で困っていることについては、「困っていることは特にない」という回答が減少しています。
- 在宅サービス利用者における家族・親族の主な介護者については、約4割が70歳以上となっており、前回調査よりやや減少しているものの、老老介護の状況が広がっています。

⇒団塊の世代が75歳以上となるなど、人口の多い世代が高齢化していくに従い、単身または高齢者のみの世帯の増加や、支援を必要とする高齢者の増加が見込まれます。

(2)新型コロナウイルス感染症の高齢者の生活への影響

- 感染症の拡大前と比べて、外出の回数が減っていると回答した高齢者は約5割となっています。
- 外出の際の移動手段を見ると、「電車」「路線バス」という回答が減少しており、不特定多数が利用する交通機関を避ける傾向がうかがえます。
- 心身の状態により外出を控えている高齢者の割合は、前回調査の約1.5倍となっており、控えている理由を見ても感染症拡大の影響がうかがえます。誰かと食事を共にする機会についても前回調査より全体的に頻度が下がっています。
- 外出が週1回以下である閉じこもり傾向のある高齢者の割合もわずかに増加しています。
- 若年者調査においても「親戚や友人との交流が減った」「外出や運動の回数が減った」という回答が5割を超えています。

⇒感染症対策により外出を控える高齢者が増加しており、閉じこもり傾向の増加による運動機能の低下や生活の質の低下、フレイルの増加が懸念され、対策の強化が求められます。

(3)情報通信機器の活用状況

- ウィズコロナにおける高齢者支援において活用が期待される情報通信機器については、「よく利用している」「ときどき利用している」の合計が、若年者では9割以上、75～79歳でも5割以上となっていますが、80歳代では利用が少なくなっています。
- 「メール・ライン等を利用した家族・知人との連絡・通信」は75～79歳の約半数、「ウェブサイト等の利用による調べものや情報収集」は70～74歳の約半数が利用しており、情報通信機器

を用いた発信にアクセスする基盤がある程度できているといえます。

⇒今後、情報通信機器の活用に慣れた世代が高齢化していくことで、積極的に機器を活用できる高齢者の増加が見込まれます。

(4)介護サービス等の状況

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、8割以上の居宅介護支援事業者、在宅介護サービス事業者においては「訪問／支援回数・時間数の縮小」「利用者・家族希望による利用控え・キャンセル」をはじめとする様々な事業所運営への影響が出ています。
- 在宅サービス利用者においても約2割が必要なサービスを受けられない経験をしており、3.1%は現在も受けられないサービスがあると回答しています。
- 在宅サービス事業者、入所施設事業者の5割以上が、今後の介護職員の増員を予定していると回答しています。また、現在の業務を行ううえで、介護職員の人数が不足しているという回答も約5割となっています。
- 居宅介護支援事業所においては、現在の業務を行ううえで、ケアマネジャーの人数が不足していると回答した事業所が3割を超えています。ケアプランの作成について、「手一杯であり、現行の体制ではこれ以上対応できない」という回答が、前回調査と比べてやや増加しています。
- ケアマネジャーの調査においても、担当している人数が「多すぎる」または「やや多すぎる」という回答が増加しています。

⇒感染症の拡大や人材不足の状況が、介護サービスの供給体制に与える影響について引き続き注視するとともに、事業者と連携した課題解決の取組が求められます。